# 目次

5FU+CDGP	1
5FU+CDDP+Pembrolizumab	2
Atezolizumab+Bev	3
ベバシズマブ+FOLFIRI	4
ベバシズマブ+IRIS	5
ベバシズマブ+mF0LF0X6	6
ベバシズマブ+S-1	7
ベバシズマブ+ s LV5FU2	8
ベバシズマブ+UFT+LV	9
ベバシズマブ+XELIRI	10
ベバシズマブ+XELOX	11
ベバシズマブ+トリフルリジン	12
biweeklyアービタックス+FOLFIRI	13
biweeklyアービタックス+mFOLFOX6	14
2外 Biweekly CPT-11+CDDP	15
CDDP+5FU	16
アービタックス+mF0LF0X6	17
2外 CPT-11+CDDP	18
2外 CPT-11+TS-1併用療法	19
DCF	20
DCS (進行・再発)	21
2外 DOC+CDGP	22

DTX+CDGP併用療法	23
Durvalumab維持療法	24
Durvalumab単剤	25
Durvalumab+GC	26
FOLFIRI	27
FOLFIRI+aflibercept	28
FOLFIRINOX療法	29
2外 FP(肝動注)	30
GCS	31
GEM+タルセバ	32
GEM3投1休+TS-1 (隔日)	33
IRIS	34
Low dose FP (CRT)	35
low-dose FP	36
modified FOLFIRINOX療法	37
m FOLFOX6	38
modified FOLFOX (膵癌)	39
nal-IRI+FU/LV	40
Nivo+mFOLFOX6	41
Nivolumab+SOX (L-OHP:100mg/m²)	42
Nivolumab+SOX (L-OHP:130mg/m²)	43
$\label{eq:nivolumab+XELOX} Nivolumab+XELOX~(L-OHP:100mg/m^2)~\dots \dots $	44
$\label{eq:nivolumab+XELOX} Nivolumab+XELOX~(L-OHP:130mg/m^2)~\dots \dots $	45
Nivolumab(240mg)+5FU+CDDP	46

Nivolumab(480mg)+5FU+CDDP	47
ベクティビックス+FOLFIRI	48
ベクティビックス+mF0LF0X6	49
ペルツズマブ・トラスツマブ配合皮下注	50
RAM+nab-PTX	51
S1+CDDP(short hydration)	52
S-1+ドセタキセル療法 (術後補助化学療法)	54
S1+CDDP	55
S-IROX	55
s LV5FU2	57
2外 SLOG	57
SOX	58
ベバシズマブ+S0X	59
S0X100+トラスツズマブ	60
S0X130+トラスツズマブ	61
ストレプトゾシン+5FU	62
トラスツズマブ デルクステカン	63
triweekly アブラキサン	64
triweekly DTX	65
triweekly アブラキサン	66
トレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法	67
2外 TS-1+ドセタキセル療法	68
weekly アブラキサン	69
Weekly CPT-11	70

weeklyパクリタキセル療法	71
Xeloda+CDDP	72
XELOX	73
XELOX	74
XELOX+Trastuumab	75
XELIRI	76
XP(Xeloda+CDDP)+ハーセプチン	77
アービタックス	78
アービタックス+FOLFIRI	79
アービタックス+biweekly CPT-11	80
アービタックス+CPT-11	81
2外 アイソボリン/5-FU 動注併用	82
2外 アイソボリン/5-FU	83
2外 アイソボリン/5-FU/CPT-11 動注併用	84
2外 アイソボリン/5-FU/CPT-11	85
アブラキサン+ゲムシタビン療法	86
ザノサー	87
GEM2投1休+TS-1併用療法	88
2外 ジェムザール3投1休	89
ニボルマブ	90
ニボルマブ+イピリムマブ併用療法	91
ニボルマブ+イピリムマブ併用療法	92
ベクティビックス+CPT-11	93
ベクティビックス単剤	94

ベバシズマブ+mFOLFOX6	95
ラムシルマブ+FOLFIRI	96
ラムシルマブ+イリノテカン併用療法	97
ラムシルマブ+パクリタキセル療法	98
ラムシルマブ+ロンサーフ併用療法	99
ラムシルマブ療法	100

レジメン名称	対象がん種	適応分類
5 F U + C D G P	食道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	グラニセトロン3mg デカドロン注	1 袋 6. 6mg	点滴	30分	day1
1)	グラニセトロン3mg デカドロン注	1 袋 3. 3mg	点滴	30分	day2, 3
1)`	グラニセトロン3mg	1袋	点滴	30分	day4, 5
2	5 F U 生理食塩液	800mg/m2 500mL	点滴	24時間	d a y 1 <b>~</b> 5
3	アクプラ 生理食塩液	90mg/m2 250mL	点滴	90分	day1
1 = -	1コースの期間		投与スケ	ジュール及び紅	総コース数
28日(4週間)				PDā	まで

- ・水分負荷が困難な症例など、標準の5FU+CDDPが使用できない症例に対して用いる。
- ・患者の心機能に応じて、可能な範囲でHydrationを行う。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
5FU+CDDP+Pembrolizumab	食道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日			
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	ルートキープ	day1			
(2)	ペムブロリズマブ	200mg/body	上法	点滴	上注 20八	E	点滴 30分 day1	dav.1
	生理食塩液100mL	1瓶		3077	day1			
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1			
<b>4</b>	硫酸Mg補正液 1mEq/mL	10mL	点滴	2時間	day1			
4	生理食塩液500mL	1袋	ボル	2时间	uayı			
	アロキシ点滴静注バッグ0.75mg	1袋						
5	デキサート注6.6mg	1瓶	点滴	30分	day1			
	デキサート注1.65mg	2A						
<b>6</b>	生理食塩液100mL	1瓶	点滴	占海	30分	day2−3		
	デキサート注6.6mg	1瓶	派仰	2073	uayz o			
7	フロセミド注20mg	1A	   全開	フラッシュ	day1			
	生理食塩液50mL	1瓶	工师	ノフツシュ	dayı			
8	シスプラチン	80mg/ <b>m</b> i		4 吽問	4時間	day1		
	生理食塩液500mL	1袋	派仰	44() [B]	dayı			
9	5-FU	800mg/ <b>m</b> ²	   点滴	24時間	day1−5			
	生理食塩液500mL	1袋		uay i o				
10	生理食塩液500mL	1袋×2	点滴	4時間	day1			
11)	ポタコールR500mL	1袋×2	点滴	6時間	day1 (翌朝まで2本)			
12	ポタコールR500mL	1袋	点滴 2時間 day2−3					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数					
	21日			PDま	で継続			

- ・インラインフィルター使用 ・イメンドカプセル使用
- ・CDDPは投与開始前日から翌日にかけてハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎・肝・心機能に応じ、投与量などを変更する
- ・ラシックスは尿量に応じ、適宜調節する
- ・CDDPの投与回数は6回を目途とする

レジメン名	対象がん種	適応分類
Atezolizumab+Bev	切除不能 肝細胞癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	テセントリク	1200mg/body	点滴 30-60分	20_60 <b>&lt;</b> >	dov1
	生理食塩液	250mL		「一川	day1
2	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
3	アバスチン	15mg∕kg	点滴	30-90分	day1
	生理食塩液	100mL	赤巾	30 307]	uayı
4	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 投				ジュール及び総	コース数
21日(3週間) PDまで					きで

- ・投与にはPVCフリーの0.2µmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・テセントリクは、生食バッグから生食20mLを抜き取った後に混注し、全量が250mLになるように調製する。投与時間は初回 $60(\pm 15)$ 分、問題なければ20回目 $30(\pm 10)$ 分で点滴可能。
- ・アバスチンは全量100mLとなるよう調製する。投与時間は初回90(±15)分、問題なければ2回目60(±10)分、3回目以降30(±10)分で点滴可能。

	 レジメン名		対象も	· / 括		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
			対象がん種 		適応分類 —————————————————————		
	ベバシズマブ+FOLFIRI		結腸·直腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	······ f間	 投与日	
	デカドロン注6.6mg	1V					
1	  アロキシ注0.75mg	1V	点滴	30分	<b>\</b>	day1	
	  生理食塩液	100mL					
	ベバシズマブ	5mg/kg	L \-	初回90			
2	生理食塩液	100mL	点滴	2回目6 3回目3		day1	
	アイソボリン	200mg/m <sup>2</sup>	⊨ ada	F '*	100()		
3	生理食塩液	250mL	点滴	1205	J`	day1	
4	トポテシン注	150mg∕ <b>m</b> i̇́	③の側管 ③と	③と同時に開	alau 1		
4	生理食塩液	250mL	から点滴	始し90分で		day1	
(5)	5-FU	400mg∕ <b>m</b> <sup>2</sup>	点滴	   15分じ	内	day1	
	生理食塩液	50mL	ボル	(全開	])	uay i	
<b>6</b>	5-FU	2400mg∕ m <sup>*</sup>	インフュー	   46時	38	day1∼3	
	生理食塩液	total 230mL	サ゛ーホ゜ンフ゜	<del>4</del> 0µ <del>त</del>	ĦJ	day1~3	
1⊐—	スの期間		投与スケ	ジュール及	ひ総	コース数	
14日間(2週間)				Ρ	Dまで	き継続	
その他(特記事項など)							
  ・イン	フューザーポンプは5mL/h <sup>-</sup>	で投与する。					

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ+IRIS	大腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシ注0. 75mg	1 V			
1	デカドロン6.6mg	1 V	点滴	30分	day 1, 15
	生理食塩液	100mL			
2	ベバシズマブ	5mg/kg	点滴	初回90分 2回目60分	day 1, 15
	生理食塩液	100mL		3回目以降 30分	
3	カンプト	100mg/m <sup>2</sup>	     点滴	90分	day 1, 15
	生理食塩液	500mL	N(V)P)	007]	uu, ., . c
4	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day 1, 15
<b>⑤</b>	TS-1	80-120mg/body	内服	1日2回	day 1 ~ 1 5
6					
1コースの期間		投与スケ	ジュール及び紀	総コース数	
28日(4週間)			4週間を1コ- P D ā		

### その他 (特記事項など)

- ・TS-1はday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後14日間休薬

・TS-1の投与量の標準は、 体表面積 1.25未満 : 80mg/day、1.25以上1.5未満 : 100mg/day、1.5以上120mg/day

レジメン名	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ+mFOLFOX6	結腸·直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート注6.6mg	1V	点滴	30分	day1
	アロキシバッグ0.75mg	1本	無利可	307]	day i
2	ベバシズマブ 5mg/kg b x	初回90分 2回目60分	day1		
	生理食塩液	100mL	点滴	3回目30分	day i
3	レボホリナート	200mg∕ <b>m</b> i̇́	七法	120分	dou1
	5%ブドウ糖	250mL	点滴	1207	day1
<b>4</b>	エルプラット	85mg∕ <b>m</b> <sup>1</sup>	③の側 管から	③と同時に	dou1
4	5%ブドウ糖	250mL	点滴		day1
<b>⑤</b>	5-FU	400mg∕ <b>m</b> ੰ	点滴	15分以内	dou1
	生理食塩液	50mL		(全開)	day1
6	5-FU	2400mg∕ <b>m</b> i̇́	インフュー サ゛ーホ゜ン	46時間	dauta 2
	生理食塩液	total 230mL	ヮーゕ ノ 	404寸[8]	day1∼3
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		総コ <b>ー</b> ス数	
14日間(2週間)			PDま <sup>-</sup>	で継続	

その他(特記事項など)

・インフューザーポンプは5mL/hで投与する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ + S-1	結腸癌、直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生理食塩液	50mL	点滴	ルートキープ	day 1 , 15, 29
2	ベバシズマブ 生理食塩液	5mg/kg 100mL	点滴	30~90分	day 1 , 15, 29
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1 , 15, 29
4	TS-1	80-120mg/body	内服	1日2回 朝夕食後	day1-28
1 = -	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		コース数
42日間(6週間)			PDま	<b>∵</b> で	

- ・ベバシズマブは初回90分で点滴し、問題なければ次回から60分で投与する。60分で問題なければ30分に点滴速度を変更して投与する。
- ・TS-1はday1の夕食後から開始し、day28朝食後まで服用後14日間休薬とする。体表面積が1.25未満の場合は80mg/day、1.25以上1.5未満の場合は100mg/日、1.5以上の場合は120mg/日とする。

レジメン名	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ+sLV5FU2	結腸∙直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
(1)	アロキシ0.75mg	1V	点滴	30分	day1
	生理食塩液	100mL	赤巾	307]	uayı
2	ベバシズマブ	5mg/kg	   点滴	初回90分 2回目60分	day1
	生理食塩液	100mL	が心	3回目30分	uayı
3	アイソボリン	200mg∕ <b>m</b> í	   点滴	120分	day1
	生理食塩液	250mL		1207	uay i
4	5-FU	400mg ∕ <b>m</b> ੰ	点滴	15分以内 (全開)	day1
<u> </u>	生理食塩液	50mL			
<b>(5)</b>	5-FU	2400mg∕ <b>m</b> <sup>†</sup>	インフュー	46時間	day1 <b>∼</b> 3
	生理食塩液	total 230mL	サ゛ーホ゜ンフ゜ 	サ <sup>*</sup> ーホ <sup>°</sup> ンフ <sup>°</sup>   <sup>40時间</sup>	day1~3
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		コース数	
14日間(2週間)			PDまで	· <b>継続</b>	

- ・ベバシズマブは初回90分で点滴し、問題なければ次回から60分に。60分で問題なければ30分に点滴速度を変更して投与する。 ・インフューザーポンプは5mL/hで投与する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ + UFT + LV	結腸癌、直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生理食塩液	50mL	点滴	ルートキープ	day 1 , 15
2	ベバシズマブ 生理食塩液	5mg/kg 100mL	点滴	30~90分	day 1 , 15
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1 , 15
4	UFT	300mg/m2	内服	1日3回食間	day1-21
(5)	ホリナート錠	75mg	内服	1日3回食間 (UFTと同 時)	day1-21
1コースの期間		投与スケ	ジュール及び総	コース数	
28日間(4週間)			PDま	て	

- ・ベバシズマブは初回90分で点滴し、問題なければ次回から60分で投与する。60分で問題なければ30分に点滴速度を変更して投与する。
- ・UFT、ホリナートについては、1日3回(約8時間ごとに)、食事の影響をうけるため食事の前後1時間を避けて経口投与する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
bev+XELIRI	大腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ注0.75mgバッグ デキサート6.6mg	1バッグ 1V	点滴	30分	day 1
2	ベバシズマブ 生理食塩液	7.5mg/kg 合計100mL	点滴	初回90分 2回目60分 3回目以降 30分	day 1
3	カンプト点滴静注 生理食塩液	200mg/m³ 500mL	点滴	90分	day 1
4	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day 1
<b>⑤</b>	ゼローダ	1600mg/m²/day	内服		day 1~15
6					
1コースの期間		投与スケ	ジュール及び紅	総コース数	
21日(3週間)				PDā	まで

- ・ゼローダはday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後7日間休薬 ・ゼローダの標準投与量は体表面積に合わせて次に基づき投与する。 1,31m²未満:1800mg/日 1,31以上1,69m²未満:2400mg/日 1,69以上2,07m²未満:3000mg/日
- 2,07m<sup>2</sup>以上:3600mg/日
- ・UGT1A1の遺伝子多型を測定し、ホモ又はダブルヘテロの場合はカンプトの投与量を 150mg/m2に減量する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ+XELOX	結腸·直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法 投与時間		投与日	
1	デキサート注6.6mg	1V	点滴	30分	day1	
	アロキシバッグ	50mL				
2	ベバシズマブ	7.5mg/kg	 点滴	初回90分 2回目60分	day1	
	生理食塩液	100mL	黑心	3回目30分	uay i	
3	エルプラット	130mg∕ <b>m</b> i̇́	点滴	120分	day1	
	5%ブドウ糖	250mL	黑心	1207]	uay i	
	ゼローダ	下記参照	内服	1日2回 朝夕食後すぐ	day1∼14	
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数				
21日間(3週間)			アバスチン・エルプラットは1投2休 ゼローダは14日間内服後7日休薬 PDまで			

### その他(特記事項など)

- ・ベバシズマブは初回90分で点滴し、問題なければ次回から60分に。60分で問題なければ30分に点滴速度を変更して投与する。
- ・ゼローダはday1の夕食後から以下の投与量(1回量として)で開始する。

体表面積 1.36未満:1,200mg 、 1.36以上1.66未満:1,500mg 、 1.66以上1.96未満:1,800mg 1.96以上:2,100mg

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ + トリフルリジン	結腸癌、直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生理食塩液	50mL	点滴	ルートキープ	day 1 , 15
2	ベバシズマブ 生理食塩液	5mg/kg 100mL	点滴	30~90分	day 1 , 15
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1 , 15
4	トリフルリジン	35mg/m2/回	内服	1日2回 朝夕食後	day1-5、day8-12
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
28日間(4週間)			PDまで		

- ・ベバシズマブは初回90分で点滴し、問題なければ次回から60分で投与する。60分で問題なければ30分に点滴速度を変更して投与する。
- ・トリフルリジンについて、前コース中に、減量基準に該当する有害事象が発現した場合には、投与再開時において、コース単位で1日単位量として10mg/日単位で減量することとする。 最低投与量は、30mg/日までとする。トリフルリジンを50mg/日を投与する場合は、朝食後に20mg、夕食後に30mgを投与することとする。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
biweeklyアービタックス+FOLFIRI	結腸・直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン注6.6mg ポララミン注5mg ガスター注20mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50ml	点滴	全開	day1
2	アロキシ注 生理食塩液50mL	1 V	点滴	30分	day1
3	アービタックス注 生理食塩液	500mg∕m <sup>°</sup> Total 500mL	点滴	120分	day1
4	レボホリナート 生理食塩液	200mg∕m <sup>*</sup> 250mL	点滴	120分	day1
側	トポテシン 生理食塩液	150mg∕m <sup>*</sup> 250mL	⑤の側管 から	⑤と同時に 開始し90分 で	day1
5	5-FU 生理食塩液	400mg ∕ m <sup>3</sup> 50mL	点滴	全開	day1
6	5-FU 生理食塩液	2400mg∕m <sup>°</sup> total 230mL	インフュー ザーポンプ	46時間	day1
1 = -	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		
14日間(2週間)		アービタックスとFOLFIRIは隔週投与 2週間を1コースとして、PDまで継続			

<sup>・</sup>アービタックス投与時のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。 ・アービタックスによるG3以上の皮膚症状発現時は、添付文書に基づき、投与量の調節を行うこと。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
biweeklyアービタックス+mFOLFOX6	結腸・直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン注6.6mg ポララミン注5mg ガスター注20mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50ml	点滴	全開	day1
2	アービタックス注 生理食塩液	500mg∕m <sup>°</sup> Total 500mL	点滴	120分	day1
3	生理食塩液	100m l	点滴	30分	day1
4	アロキシ注 生理食塩液50mL	1 V	点滴	全開	day1
(5)	レボホリナート 5%ブドウ糖液	200mg∕m <sup>*</sup> 250mL	点滴	120分	day1
側	エルプラット 5%ブドウ糖液	85mg ∕ m³ 250mL	⑥の側管 から	⑥と同時に 開始し120分 で	day1
6	5-FU 生理食塩液	400mg ∕ m³ 50mL	点滴	全開	day1
7	5-FU 生理食塩液	2400mg∕m¹ total 230mL	インフュー ザーポンプ	46時間	day1
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
14日間(2週間)		アービタックスとFOLFOXは隔週投与 2週間を1コースとして、PDまで継続			

- ・アービタックス投与時のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。
- ・アービタックス終了後は、同じ速度で生食フラッシュを行う。 ・アービタックスによるG3以上の皮膚症状発現時は、添付文書に基づき、投与量の調節を行うこ ہ ع

	レジメン名			対象がん種		適応分類	
2外 Biweekly CPT-11+CDDP		胃癌		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他			
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時		投与日	
	デキサート1.65mg	ЗА					
	アロキシバッグ	1本					
2	5%ブドウ糖液	500ml	占油	点滴 90分		day1,15	
	カンプト注	40-60mg/ <b>m</b> <sup>2</sup>	無利			uay 1,10	
3	生理食塩液	500ml	点滴	90分	<b>,</b>	day1,15	
	シスプラチン注	20-30mg/m <sup>2</sup>	ANY /IPJ	307.	,	day 1,10	
4	生理食塩液	50mL	点滴	全開	F	day1,15	
5							
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			 ∷コース数		
	1コース4週(28日)					として繰り返す 『継続	

・腎障害軽減のため、飲水指導を行うこと。

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+5FU	食道癌 胃癌	■ 進行・再発癌 ■ 術前補助化学療法 ■ 術前化学療法(進行) ■ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
	デカドロン注6.6mg	1V				
1	アロキシ静注	1V	│ 点滴  (側管2)	30分	day1	
	生理食塩液	100mL				
①'	デカドロン注1.65mg	2A	点滴	30分	dov2~2	
	生理食塩液	100mL	(側管2)	3077	day2∼3	
2	ラシックス20mg	1A	点滴	30分	day1	
	生理食塩液	100mL	(側管2)	307]	uay i	
3	ランダ注	80mg/ <b>m</b> ²	点滴	4時間	day1	
	生理食塩液	500mL	(側管2)	4時间		
<b>4</b>	5-FU	800mg/ <b>m</b> ²	持続点滴	24時間	-l4	
4	ポタコールR注	500mL	(側管1)	24時间	day1∼5	
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数				
21日間(3週間)			1週(5日間)投与2週休薬を1コースとして 2コース実施			

- ・ランダ投与開始前日~投与翌日にかけて、5~6000mL程度のハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎肝心機能等に応じ投与量などを変更する。
- ・ランダは投与量に相当する生食をボトルから抜いてから混合し、totalとして500mLとする。
- ・ラシックスは尿量に応じ、適宜調節。
- ・支持療法は患者の状態や副作用の発現状況に応じ適宜、変更や増減を行う。
- ・胃癌に対しては、TS-1(標準治療)が内服できないなどの場合にのみ使用する。

	レジメン名		対象7	がん種		適応分類
	アービタックス+mFOLFOX6		EGFR陽性の治癒切 除不可能な進行・再 発の結腸・直腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日
1	デカドロン注6.6mg ポララミン注5mg ガスター注20mg 生理食塩液	1 V 1 A 1 A 50mL	点滴	全開で (約 5分)		day 1,8
2	アロキシ注 生理食塩液100mL	1V	点滴	30分		day 1
2	生理食塩液	50mL	点滴	30分		day 8
3	アービタックス注 生理食塩液	250mg/㎡ (初回は400mg/m total 250mL (初回は500mL)	点滴	60分 (初回は 120分)		day 1,8
4	生理食塩液	100mL	フラッシュ用	250mL/	′h	day 1
4	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	250mL/	⁄h	day 8
5	経過観察			1時間		day 1,8
6	レボホリナート 5%ブドウ糖	200mg ∕ m² 250mL	点滴	120分		day 1
側	エルプラット 5%ブドウ糖	150mg∕ m <sup>*</sup> 250mL	⑥の側管 から	⑥と同時に開始 し120分で		day 1
7	5-FU 生理食塩液	400mg ∕ m <sup>2</sup> 50mL	点滴	全開で		day 1
8	5-FU 生理食塩液	2400mg∕m <sup>*</sup> total 230mL	インフュー サ゛ーホ゜ンフ゜	46時間	1	day 1
1⊐-	1コースの期間			ジュール及び	バ総コ-	ース数

その他(特記事項など)

14日(2週間)

アービタックスは毎週投与

FOLFOXはbiweeklyで投与 を1コースとしてPDまで継続

<sup>・</sup>アービタックス投与前のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。

<sup>・</sup>アービタックス終了後は、同じ速度で生食フラッシュを行い、その後経過観察とする。なお、day8はフラッ シュ終了後は抜針し、経過観察とする。 ・アービタックスによるG3以上の皮膚症状発現時は、添付文書に基づき、投与量の調節を行うこと。

			対象が	ぶん種		 適応分類
2外 CPT-11+CDDP		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day 1, 15
2	カンプト 5%ブドウ糖液	70mg/m² 500mL	点滴	90分	<b>&gt;</b>	day 1, 15
3	シスプラチン	80mg/m²	点滴			day 1
4						
(5)						
6						
1⊐-	· ·スの期間		投与スケジュール及び総コース数			
4(~6)週間			4(~6)週間を1コースとして繰り返す。 PDまで継続			
その他(特記事項など) ・CDDPを含む day 1は入院で ・ハイドレーションを行う						

レジメン名			対象が	対象がん種		適応分類
2外 CPT-11+TS-1併用療法		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day 1,15
2	カンプト 生理食塩液	80mg/m² 500mL	点滴	90分		day 1,15
3	TS-1	80-120mg	経口		/	day 1−21
4						
<b>⑤</b>						
6						
1⊐—	 スの期間		投与スケジュール及び総コース数			
35日間(5週間)			5週間を1クールとして繰り返す。 PDまで継続			

レジメン名	対象がん種	適応分類
DCF	食道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
	デカドロン注6.6mg	1V				
1	アロキシ静注	1V	点滴  (側管2)	30分	day1、8	
	生理食塩液	100mL	(1)			
	ガスター注	1A				
2	ポララミン注	1A	点滴  (側管2)	30分	day1、8	
	5%ブドウ糖	100mL	(1)			
3	5-FU	600mg/ <b>m</b> i	持続点滴	24時間	dov1 e 45	
	生理食塩液	500mL	(側管1)	244寸[日]	day1 <i>∼</i> 5	
<b>4</b>	ドセタキセル注	35mg∕ <b>m</b> <sup>‡</sup>	点滴	2時間	dov1 0	
4	5%ブドウ糖	500mL	(側管2)	2時间	day1、8	
(5)	ランダ注	12mg/m²	点滴	4時間	day1 <i>∼</i> 5	
	生理食塩液	500mL	(側管2)	4時间	day ( ** 5	
6						
1⊐—	1コースの期間			L		
	28日間(4週間)			4週(28日)を1コースとして繰り返す PDまで施行		

- ・ランダ投与開始前日よりday10までの間、1日1500mL程度のハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎肝心機能等に応じ投与量などを変更する。
- ・5FUは本体の側管1から、それ以外の薬剤は側管2から投与する。
- ・支持療法は患者の状態や副作用の発現状況に応じ適宜、変更や増減を行う。

レジメン名	対象がん種	適応分類
DCS(進行·再発)	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
2	アロキシバッグ	50mL	点滴	204	da <b>1</b>	
	デキサート	9.9mg	(側管)	30分	day1	
(1)	デキサート	6.6mg	点滴	204	da0 a . 2	
	生理食塩液	100mL	(側管)	30分	day2∼3	
	ガスター注	1A				
2	ポララミン注	1A	点滴  (側管)	30分	day1	
	5%ブドウ糖	100mL	(2) 11			
3	ドセタキセル	40mg/m²	点滴	O III BB	-I <del>1</del>	
	生理食塩液	250mL	(側管)	2時間	day1	
2	ラシックス注20mg	1A	点滴	30分	dov.1	
	生理食塩液	100mL	(側管)	3077	day1	
3	シスプラチン	60mg/m²	点滴	2時間	dov.1	
	生理食塩液	合計500mL	(側管)	∠□寸□□	day1	
	TS-1	80mg/ <b>m</b> <sup>2</sup>	経口		day1∼14	
1⊐—	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
28日間(4週間)		TS-1はday1の夕からday15朝まで 連続服用後14日間休薬を1コース PDまで継続				

- ・TS-1は以下の投与量(1回量)を1日2回朝夕食後に内服する。 体表面積 1.25未満:40mg 、 1.25以上1.50未満:50mg 、 1.5以上:60mg ・シスプラチン投与開始前日〜投与翌日にかけて、5〜6000mLのハイドレーションを実施し、年齢・
- ・シスプラチン投与開始前日〜投与翌日にかけて、5〜6000mLのハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎肝心機能等に応じ投与量などを変更する。
- ・ラシックスは尿量に応じ、適宜調節。
- ・支持療法は患者の状態や副作用の発現状況に応じ適宜、変更や増減を行う。
- •イメンドを併用する

レジメン名	対象がん種	適応分類
2外 DOC+CDGP	食道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

	Γ	1		,	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	ポララミン注5mg	1A			
1	ガスター注20mg	1A	点滴	全開で	day1、15
	生理食塩液	50mL			
	アロキシ注0.75mg	1V			
2	デカドロン注6.6mg	1V	点滴	30分	day1、15
	生理食塩液	100mL			
3	ドセタキセル注	30mg∕ <b>m</b> <sup>2</sup>	点滴	60分	day1、15
	生理食塩液	250mL		007	dayı, 15
<b>4</b>	アクプラ注	40mg/m²	点滴	60分	dov.1 15
4	生理食塩液	500mL		0077	day1、15
(5)	ソリタT3	500mL	点滴	60分	day1、15
1⊐—	 スの期間		投与スケジュール及び総コース数		
28日(4週間)		4週間を1コースとして繰り返す。 PDまで継続			
その他(特記事項など)					

・腎障害軽減のため、飲水指導を行うこと。

レジメン名			対象が	対象がん種		適応分類	
DTX+CDGP併用療法		進行食	進行食道癌		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日	
1	カイトリルバッグ デカドロン8mg	1袋 1V	点滴	30分		day1	
2	ドセタキセル 生理食塩液	45mg / m <sup>2</sup>	点滴	60分		day1	
3	アクプラ 生理食塩液	60mg∕m <sup>²</sup> 500mL	点滴	1203	<b>}</b>	day1	
4							
5							
6							
1⊐-	スの期間		投与スケシ	ジュール ス	及び総	コース数	
14日間(2週)		1投1休(隔週)で繰り返す。 可能な限り継続					
その他	也(特記事項など)		•				

レジメン名称			対象カ	対象がん種		適応分類		
Durvalumab維持療法		胆道癌		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他				
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	······ 宇間	投与日		
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	1	dayl		
2	デュルバルマブ 生理食塩液100mL	1500mg/body 1瓶	点滴	60分		dayl		
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ		dayl		
13-	スの期間		投与スケジュール及び総コース数					
28日		PDまで						

	レジメン名称 	`	刈家ル	·ん理 	<u> </u>	適応分類	
Durvalumab単剤		肝細胞癌		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他			
順序	投与薬剤	 1日投与量	投与法	投与時	——— 詩間		
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開		dayl	
2	デュルバルマブ 生理食塩液100mL	1500mg/body 1瓶	点滴	60分		dayl	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ		dayl	
13-	スの期間		投与スケジュール及び総コース数				
28日			PDまで				
その他(特記事項など) ・体重が30kg以下の場合、デュルバルマブは20mg/kgで計算する ・デュルバルマブはインラインフィルターを使用して投与する							

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Durvalumab+GC	胆道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	dayl
2	デュルバルマブ	1500mg/body	占濟	60分	day1
	生理食塩液100mL	1瓶	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		aa, i
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	dayl
4	パロノセトロンバッグ0.75mg	1袋	上海	△問	d1 0
	デキサート注6.6mg	1瓶		dayl,8	
5	生理食塩液250mL	1袋	点滴	60分	day1,8
6	シスプラチン	25mg/m²	上海	604	dayl,8
	生理食塩液500mL	l袋		000	uay1,0
7	ゲムシタビン	1000mg/m²	上海	204	day1,8
	生理食塩液250mL	1袋		30分	day1,0
8	生理食塩液250mL	1袋	点滴	30分	day1,8
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
21日		*PDまで			

- ·必要時、day2,3にDEX 8mg内服
- ・体重が30kg以下の場合、デュルバルマブは20mg/kgで計算する・デュルバルマブはインラインフィルターを使用して投与する・最大8コースが終了後、デュルバルマブ単剤に以降する

- ※TOPAZ-1治験では最大8コースの化学療法併用となっていたが、実臨床では副作用がない限り、PD判 断まで併用する

	レジメン名		対象か	対象がん種		適応分類	
FOLFIRI		結腸∙直腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	#間	投与日	
70073	デカドロン注6.6mg	1V	12.37.	12.3	, 11-3	12.7.	
	アロキシ注0.75mg	1V	点滴	30 <del>/</del>	30分	day1	
	生理食塩液	100mL	711.71-3	30%		Gay i	
	レボホリナート	200mg/m²				day1	
2	  生理食塩液	250mL	点滴	側管 ②と同時	120分		
	トポテシン注	150mg∕ <b>m</b> <sup>†</sup>	②の側管	②と同時	②と同時に開 始し90分で	day1	
3	  生理食塩液	250mL	から点滴				
	5-FU	400mg/m <sup>2</sup>	F >-	15分以	—— 人内		
4	生理食塩液	50mL	点滴 120分 ②の側管 ②と同時/		day1		
	5-FU	2400mg∕ <b>m</b> i	インフュー	400+1	88		
5	生理食塩液	total 230mL	サ <sup>*</sup> ーホ <sup>°</sup> ンフ <sup>°</sup>	40時  	间	day1∼3	
6							
1⊐—	 スの期間		投与スケ	L ジュール及	及び総	<u> </u>	
	14日間(2週間		P	Dまで	ご継続		
その作							
・インフューザーポンプは5mL/hで投与する。							

	レジメン名		対象が	対象がん種		適応分類	
FOLFIRI+aflibercept		大腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	 }間	投与日	
1	デキサート注 アロキシバッグ	6.6mg 0.75mg	点滴	30分	}	day1	
2	ザルトラップ 生理食塩液	4mg∕kg 250mL	点滴	60 <del>7.</del>	<b>}</b>	day1	
3	生理食塩液	50mL	250ml/h			day1	
4	レボホリナート 生理食塩液	200mg∕m <sup>*</sup> 250mL	点滴	1203	<del>ने</del>	day1	
5	カンプト注 生理食塩液	150mg∕ m <sup>2</sup>	④の側管 から点滴			day1	
6	5-FU 生理食塩液	400mg∕ m <sup>*</sup> 50mL	点滴	15分以 (全開		day1	
7	5-FU 生理食塩液	2400mg∕m <sup>*</sup> total 92mL	インフュー サ゛ーホ゜ンフ゜	46時	間	day1 <b>∼</b> 3	
1⊐—	スの期間		投与スケシ	<b>ジュール</b> 及	及び総	コース数	
14日間(2週間)			F	Dまで	<b>҈継続</b>		
その他(特記事項など)							

レジメン名称	対象がん種	適応分類
FOLFIRINOX療法	膵癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート注 アロキシ点滴静注バック	9. 9mg 50mL	点滴	30分	day1
2	エルプラット点滴静注液 5%ブドウ糖	85mg∕m³ 250mL	点滴	120分	d a y 1
3	レボホリナート 5%ブドウ糖	200mg∕m <sup>*</sup> 250mL	点滴	120分	day1
側	トポテシン点滴静注 生理食塩液	180mg∕m³ 250mL	③の側 管から 点滴	③と同時に 開始し90分	day1
4	5-FU注 生理食塩液	400mg∕m³ 50mL	点滴	15分以内 (全開で)	day1
5	5-FU注 生理食塩液	2400mg∕m <sup>°</sup> total 92mL	インフューサ゛ー ホ゜ンフ゜	46時間	d a y 1∼ 3
1 = -	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		
14日間(2週間)		P Dまで継続		で継続	

- ・インフューザーポンプは2mL/hで投与する。 ・day1の③投与60分~90分前にイメンドカプセル125mgを経口投与する。 ・day2~3の午前中にイメンドカプセル80mg(1日1回)及びデカドロン4mg(1日1 回)を経口投与する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
2外 FP(肝動注)	胃癌又は食道癌 原発切除不能転 移性肝癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1. 15	
2	生理食塩液 (末梢ルートキープ)用)	100mL	点滴	40mL/h (残液廃棄)	day1. 15	
動注	5-FU	150∼350mg/m <sup>2</sup>	動注	カイトリル終了後 ワンショット	day1. 15	
動注 ②	シスプラチン 生理食塩液	3∼7mg/m <sup>²</sup> total 50mL/こ	持続動注	15分	day1. 15	
動注	へパリンNaロックシリンジ	1本	動注	ヘパリンフラッシュ	day1. 15	
6						
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数				
	28日間(4週間)			4週間を1コースとして繰り返す。 PDまで		

- ・シスプラチンの動注は5FUのワンショット動注終了次第開始する。
  ・グラニセトロンは患者の状態から必要性を考慮し、省略や内服への変更など行う場合有り。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
GCS	胆道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシバッグ0.75mg	1V	F >4-	F //	
1	デキサート注6.6mg	1V	点滴	5分 60分 30分 60分 30分 分2	Day1
2	生理食塩水	500mL	点滴	60分	Day1
	ジェムザール	1000mg/m2	上法	2077	Dov.1
3	生理食塩水	250mL	点滴	5分 60分 30分 60分 分2 ジュール及び スキップが無I	Day1
4	シスプラチン	25 mg/m2	     点滴	60分 30分 60分 30分 分2 アジュール及び約	Day1
4	生理食塩水	total500mL			
5	生理食塩水	250mL	点滴	30分	Day1
	ティーエスワン	80mg/m2	経口	分2	Day1-7
1コースの期間		投与スケ	ジュール及び	総コース数	
14日間					れば計12コース)、 当するまで

- TS-1はday1の夕食後より体表面積に応じ以下の量で開始する1.25未満:80mg/day、1.25以上1.5未満:100mg/day、1.5以上:120mg/day
- C<sub>Cr</sub>が60mi/min未満の場合はTS1を1段階減量して60mg/m2で投与
  - 1. 25未満:60mg/day、1. 25以上1. 5未満:80mg/day、1. 5以上:100mg/day

レジメン名称	対象がん種	適応分類
GEM+タルセバ	膵臓癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

	. <u></u> .	I			1
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシバッグ	50mL	点滴	30分	day1. 8. 15
	デキサート	3. 3mg			
2	ジェムザール	1000mg/m²	点滴	30分	day1. 8. 15
	生理食塩液	100mL	,,,,,,,		<b>,</b>
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1. 8. 15
4	タルセバ	100mg/body	内服		day1∼28
5					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
28日(4週間)					タルセバは連日内服 して PDまで

- 1st Lineでの治療に限る。
- ・間質性肺炎に注意し、タルセバの適正使用ガイドに基づき、適切な観察を行うこと。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
GEM3投1休+TS-1(隔日)	膵臓癌	□ 進行・再発癌 ■ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシバッグ デキサート	50mL 3. 3mg	点滴	30分	day1. 8. 15
2	ジェムザール注 生理食塩液	600~1000mg/m <sup>2</sup>	点滴	30分	day1. 8. 15
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1. 8. 15
4	TS-1	80mg/m²	内服		下記参照
5					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
28日(4週間)		2コース ただし、TS-1の内服は7週間で終了			

- ・ジェムザールの投与量は本臨床試験実施計画に基づき、600mg→800mg→1000mg/㎡とドーズエス カレーションを行う。
- ・TS-1は下記の量を朝夕食後1日2回に分割し、隔日投与(月·水·金·日)を7週間行う。 体表面積 1.25未満 :80mg 、1.25以上1.5未満 :100mg 、1.5以上 :120mg ・その他治療スケジュールや投与量については、臨床試験のプロトコールに基づいて実施す
- る。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
IRIS	大腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシ注0. 75mg	1 V			
1	デカドロン6.6mg	1 V	点滴	3 0 分	day 1 、1 5
	生理食塩液	100mL			
2	トポテシン	125mg∕ <b>m</b> <sup>*</sup>	点滴	9 0分	day 1 、1 5
	生理食塩液	500mL		907	uay 1, 1 3
3	T S — 1	80~120mg /body/day	内服	1日2回	day 1 <b>~</b> 1 5
4					
5					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
	28日間(4週間)			間を1コース。 PDま <sup>っ</sup>	として繰り返す。 で継続

### その他 (特記事項など)

- ・TS-1はday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後14日間休薬 ・TS-1の投与量の標準は、

体表面積 1.25未満 : 80mg/day、1.25以上1.5未満 : 100mg/day、1.5以上120mg/day

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Low dose FP (CRT)	食道癌	■ 進行・再発癌 ■ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ注0.75mg 生理食塩液	1 V 100mL	点滴	30分	day 1
2	5-FU ポタコールR	350mg∕m <sup>*</sup> 500mL	持続点滴	2 4 時間	day 1 <b>∼</b> 5
3	ランダ 生理食塩液	7mg ∕ m <sup>*</sup> 500mL	点滴	4 時間	day 1 <b>∼</b> 5
4					
5					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
7 日間			4	コース(4週[	間)連続で投与

- ・ハイドレーションのため、3号輸液などを1日1500mL投与する。 ・FP投与に合わせて、radiation(40~70Gy)をシンクロナイズする。

	レジメン名		対象が	対象がん種		適応分類
	low-dose FP		肝細胞癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	投与時		投与日
1	ナゼア注0,3mg 生理食塩液	1A 20mL	静注	ワンショ		day1∼5
2	ランダ 生理食塩液	10mg/body 100mL	動注	60分		day1∼5
3	5-FU 生理食塩液	250mg/body 500mL	動注	5時間		day1∼5
4	ヘパリンNaロックシリンジ	10mL	動注	ワンショット		day1∼5
5						
6						
1⊐—	スの期間		投与スケジ	ジュール及	及び総	コース数
7日間(1週)				F	Dまで	で継続
	也(特記事項など) :は動注ポートより投与					

レジメン名称	対象がん種	適応分類
modified FOLFIRINOX療法	膵癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート注 アロキシ点滴静注バッグ	9. 9mg 50mL	点滴	30分	day1
2	エルプラット点滴静注液 5%ブドウ糖	85mg∕m³ 250mL	点滴	120分	d a y 1
3	レボホリナート 5%ブドウ糖	200mg∕m <sup>*</sup> 250mL	点滴	120分	day1
側	カンプト点滴静注 生理食塩液	150mg∕m³ 250mL	③の側 管から 点滴	③と同時に 開始し90分	day1
4	5 - F U注 生理食塩液	2400mg∕m² total 92mL	インフューサ゛ー ホ゜ンフ゜	46時間	d a y 1∼ 3
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
14日間(2週間)				PDまで	で継続

- ・インフューザーポンプは 2 mL/h で投与する。 ・day 1 の③投与60分~90分前にイメンドカプセル125mgを経口投与する。 ・day 2~3の午前中にイメンドカプセル80mg(1日1回)及びデカドロン4mg(1日1 回)を経口投与する。

	レジメン名		対象がん種			
m FOLFOX6		結腸・直腸癌 小腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日
1	デキサート注6.6mg アロキシバッグ	1V 1本	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day1
2	レボホリナート 5%ブドウ糖	200mg∕ m <sup>2</sup> 250mL	点滴	120分		day1
3	エルプラット 5%ブドウ糖	85mg∕ m <sup>°</sup> 250mL	②の側管から点滴	②と同時に開 始し120分で		day1
4	5-FU 生理食塩液	400mg ∕ m <sup>2</sup> 50mL	点滴	15分り (全開		day1
5	5-FU 生理食塩液	2400mg/m² total 92mL	インフュー サ゛ーポンフ゜ 46時間 da		day1∼3	
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数				
	14日間(2週間)			Ρ	Dまて	<b>҈継続</b>
その作	その他(特記事項など)					

・インフューザーポンプは2mL/hで投与する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
modified FOLFOX	膵臓癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
(1)	デキサート注6.6mg	1V	点滴	30分	day1	
	アロキシバッグ	1本	黑心	307]	uayı	
2	レボホリナート	200mg∕ <b>m</b> i̇́	点滴	120分	day1	
	5%ブドウ糖	250mL	黑心	120/]	uayı	
3	エルプラット	85mg∕ <b>m</b> <sup>†</sup>	②の側管		day1	
	5%ブドウ糖	250mL	から点滴	始し120分で	uayı	
4	5-FU	2000mg∕ <b>m</b> <sup>†</sup>	インフュー サ゛ーホ゜ンフ゜	46時間	day1−3	
	生理食塩液	total 92mL	サ <sup>゛</sup> ーホ゜ンフ゜	40µ()	dayı 5	
1⊐—	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
	14日間(2週間)			PDまで	· <b>継続</b>	

- ・イリノテカン不耐の場合に限る
- ・インフューザーポンプは2mL/hで投与する。
- ・ゲムシタビン治療抵抗性症例、二次治療以降に適応する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
naI-IRI+FU/LV	膵癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
(1)	デキサート	9. 9mg	上这卦注	15分	Dov1
	アロキシバッグ	0.75mg/50mL	点滴静注	1927	Day1
2	5%ブドウ糖注射液	500mL	点滴静注	90分	Day1
	オニバイド	$70 \text{mg/m}^2$	品)	90,27	Dayı
3	生理食塩液	50mL	占淬整注	フラッシュ	Dov1
3				フラッシュ	Day1
4	レボホリナート	200mg/m²	点滴静注	2時間	Day1
4	5%ブドウ糖注射液	250mL			Dayı
(5)	生理食塩液	50mL	点滴静注	フラッシュ	Day1
9				77971	Dayı
6	フルオロウラシル	2, 400mg/m²	持続静注	46時間	Day1∼3
0	生理食塩液	total 92mL	付 初 押 /土	40四寸[日]	Day1∼3
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
2週間			PDまで		

### その他(特記事項など)

UGT1A1\*6もしくはUGT1A1\*28のホモ接合体またはUGT1A1\*6及びUGT1A1\*28のヘテロ接合体を有する 患者は、CPT-11として1回量50mg/m²を開始用量とする。なお、忍容性が認められる場合は、1回量 として70mg/m²に増量することができる。

	レジメン名科	<b>T</b>	対象カ	えん種		適応分類	
Nivo+mFOLFOX6			治癒切除不能な 進行・再発の胃癌		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日	
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	]	dayl	
2	ニボルマブ 生理食塩液100mL	240mg/body 1瓶	点滴	305	<del>)</del>	dayl	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシ	ンユ	dayl	
4	パロノセトロン点滴静注 バッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1瓶	点滴	30分		dayl	
5	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液250mL	85mg/㎡ 1袋	点滴	120分		dayl	
側	レボホリナート 5%ブドウ糖液250mL	200mg/㎡ 1袋	点滴	1203	分	dayl	
6	フルオロウラシル 生理食塩液50mL	400mg/㎡ 1袋	点滴	5分	•	dayl	
7	フルオロウラシル 生理食塩液50mL	2400mg/㎡ 1瓶	点滴	46時	間	インフューザーポンプ	
1コースの期間		投与スケン	ジュール及	ひ総	コース数		
14日間					ΡΙ	)まで	
	也(特記事項など) ルマブはインラインフィルタ	一使用	1				

	レジメン名称			対象がん種		適応分類	
Nivolumab+SOX (L−OHP:100mg/㎡)		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	 投与時間		投与日	
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開		day1	
2	ニボルマブ 生理食塩液100mL	360mg 64mL	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day1	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシ	ノユ	day1	
4	パロノセトロン 点滴静注バッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋	点滴	30分		day1	
⑤	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液500mL	100mg/㎡ 1袋	点滴	1203	<b>}</b>	day1	

 1コースの期間
 投与スケジュール及び総コース数

 21日間
 PDまで

点滴

内服

フラッシュ

day1

day1-14

#### その他(特記事項など)

生理食塩液50mL

TS-1

**6** 

7

TS-1はday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後、7日間休薬する 投与量は以下の通り、体表面積に応じて計算する

1.25㎡未満:80mg/day、1.25㎡以上~1.5㎡未満:100mg/day、1.5㎡以上:120mg/day

1瓶

レジメン名称			対象がん種			適応分類
	Nivolumab+SOX(L−OHP:130mg/㎡)			胃癌		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時		投与日
(1)	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全界	 	dav1

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
	ニボルマブ	360mg	上汝	2045	41
2	生理食塩液100mL	64mL	点滴	30分	day1
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
4	パロノセトロン 点滴静注バッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
9	デキサート注6.6mg	1瓶	流伸	30)]	dayı
5	オキサリプラチン	130mg/ <b>m</b> ²	点滴	120分	day1
9	5%ブドウ糖液500mL	1袋	ボルリ	120)]	uayı
6	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
7	TS-1		内服 day1-14		
1コースの期間			投与スケシ	ジュール及び総	コース数
21日間				PD	まで

#### その他(特記事項など)

TS-1はday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後、7日間休薬する 投与量は以下の通り、体表面積に応じて計算する

1.25㎡未満:80mg/day、1.25㎡以上~1.5㎡未満:100mg/day、1.5㎡以上:120mg/day

			ı				
レジメン名称		対象が	対象がん種		適応分類		
	Nivolumab+XELOX (L−OHP:100mg/㎡)		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	······· f間	投与日	
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	]	day1	
2	ニボルマブ 生理食塩液100mL	360mg 64mL	点滴	30 <del>/</del> 3	<b>&gt;</b>	day1	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ		day1	
4	パロノセトロン 点滴静注バッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1瓶	点滴	30分		day1	
(5)	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液500mL	100mg/ <b>㎡</b> 1袋	点滴	120分		day1	
6	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシ	ノユ	day1	
7	ゼローダ		内服			day1-14	
1⊐—	スの期間		投与スケジュール及び総コース数				
21日間					PD	まで	
その他(特記事項など) ゼローダはday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後、7日間休薬する 投与量は添付文書のC法に従って決定する							

			1				
	レジメン名称		対象が	対象がん種		適応分類	
Nivolumab+XELOX (L−OHP:130mg/㎡)		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日	
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	]	day1	
2	ニボルマブ 生理食塩液100mL	360mg 64mL	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day1	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ		day1	
4	パロノセトロン 点滴静注バッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1瓶	点滴	30分		day1	
5	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液500mL	130mg/㎡ 1袋	点滴	120分		day1	
6	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシ	ノユ	day1	
7	ゼローダ		内服			day1-14	
1⊐—	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数				
	21日間				PD	まで	
その他(特記事項など) ゼローダはday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後、7日間休薬する 投与量は添付文書のC法に従って決定する							

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Nivolumab (240mg)+5FU+CDDP	根治切除不能な 進行・再発の食道 癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

			1	1		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	ルートキープ	day1,15	
2	ニボルマブ	240mg/body	点滴	30分	day1,15	
	生理食塩液100mL	1瓶		307]	dayı,ıs	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1,15	
<b>4</b> )	硫酸Mg補正液 1mEq/mL	10mL	点滴	2時間	day1	
4	生理食塩液500mL	1袋	流响	と4寸[日]	uayı	
	パロノセトロン点滴静注バッグ0.75mg	1袋				
5	デキサート注6.6mg	1瓶	点滴	30分	day1	
	デキサート注1.65mg	2A				
6	生理食塩液100mL	1瓶	点滴	30分	day2-3	
	デキサート注6.6mg	1瓶	流伸		day2 0	
7	フロセミド注20mg	1A	全開	フラッシュ	day1	
	生理食塩液50mL	1瓶	土田	77774	uayı	
8	シスプラチン	$80 \mathrm{mg/m^2}$	   点滴	4時間	day1	
	生理食塩液500mL	1袋	不怕	十十寸[日]	uayı	
9	5-FU	$800 \mathrm{mg/m^2}$	点滴	24時間	dov1-5	
	生理食塩液500mL	1袋	流心	244寸[日]	day1−5	
10	生理食塩液500mL	1袋×2	点滴	4時間	day1	
11)	ポタコールR500mL	1袋×2	点滴	6時間	day1 (翌朝まで2本)	
12	① ポタコールR500mL 1袋			点滴 2時間 day2-3		
1⊐—	1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日			PDまで継続			

- ・インラインフィルター使用 ・イメンドカプセル使用 ・CDDPは投与開始前日から翌日にかけてハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎・肝・心機能に応じ、投 与量などを変更する
- ・フロセミドは尿量に応じ、適宜調節する

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Nivolumab (480mg)+5FU+CDDP	根治切除不能な 進行・再発の食道 癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	ルートキープ	day1	
<b>2</b>	ニボルマブ	480mg/body	点滴	30分	day1	
	生理食塩液100mL	1瓶	派旭	307)	dayı	
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1	
<b>4</b>	硫酸Mg補正液 1mEq/mL	10mL	点滴	2時間	day1	
•	生理食塩液500mL	1袋	派仰	乙叶门门	dayı	
	パロノセトロン点滴静注バッグ0.75mg	1袋				
5	デキサート注6.6mg 1瓶 点滴	点滴	30分	day1		
	デキサート注1.65mg	2A				
<b>6</b>	生理食塩液100mL	1瓶	点滴	点滴 30分	day2−3	
	デキサート注6.6mg	1瓶				
7	フロセミド注20mg	1A	ク問 フ	全開 フラッシュ	day1	
	生理食塩液50mL	1瓶	工加		uay i	
8	シスプラチン	$80 \mathrm{mg/m^2}$		4時間	day1	
	生理食塩液500mL	1袋	がいわ	TH-1 [12]	day i	
9	5-FU	800mg/ <b>m</b> i	点滴	24時間	day1−5	
	生理食塩液500mL	1袋	がいわ	2 THI, [ [ ] ]	uay i o	
10	生理食塩液500mL	1袋×2	点滴	4時間	day1	
11)	ポタコールR500mL	1袋×2	点滴	6時間	day1 (翌朝まで2本)	
12	① ポタコールR500mL 1袋			2時間	day2-3	
1=-	1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
	28日			PDま	で継続	

- ・インラインフィルター使用 ・イメンドカプセル使用 ・CDDPは投与開始前日から翌日にかけてハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎・肝・心機能に応じ、投 与量などを変更する
- ・フロセミドは尿量に応じ、適宜調節する

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベクティビックス+FOLFIRI	直腸・結腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン6.6mg アロキシ0.75mg 生理食塩液100mL	1V 1V 1V	点滴 (リザーバ)	30分	day1
2	ベクティビックス 生理食塩液100mL	6mg/Kg	点滴 (リザーバ)	60分	day1
3	レボホリナート 生理食塩液 250ml	200mg/ <b>m</b> i	点滴 (リザーバ)	2時間	day1
	トポテシン 生理食塩液 250mL	150mg/ <b>m</b> i	同時に点滴 開始	90分	dayi
4	5一FU 生理食塩液50mL	400mg/m²	急速静注(リザーバ)	急速静注	day1
5	5-FU 生理食塩液250mL	2400mg/ <b>m</b>	インフューサ゛ーホ゜ン プ゜(リサ゛ー ハ゛)	46時間 持続点滴	day1, 2, 3
1コースの期間		投与スケジュ	-ール及び総コ	ース数	
	1 4 日間			2週間隔投与	PDまで

- ・ベクティビックス投与時は0.2または0.22ミクロンのインラインフィルターを用いて投与する こと ・持続 5 FUは5m L /hで46時間投与となるように調製する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベクティビックス+mFOLFOX6	直腸∙結腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
	デカドロン6.6mg	1V				
1	アロキシ0.75mg	1V	点滴 (リサ゛ーハ゛)	30分	day1	
	生理食塩液100mL	1V				
2	ベクティビックス	6mg/Kg	点滴	60分	day1	
	生理食塩液100mL	1V	(リサ゛ーハ゛)			
3	レボホリナート 5%ブドウ糖 250ml	200mg/ <b>m</b> i	点滴 (リサ´ーハ´)	2時間	day1	
	エルプラット 5%ブドウ糖 250mL	85mg/ <b>m</b> i	同時に点滴 開始	Z # () [B]	uay i	
4	5-FU	400mg/ <b>m</b> i	点滴	急速静注	day1	
•	生理食塩液50mL		(リサ゛ーハ゛)	心处肝冮	uay i	
<b>⑤</b>	5-FU	2400mg/m <sup>2</sup>	インフューサ <sup>*</sup> ー ポ <sup>°</sup> ンフ <sup>°</sup>	46時間	day1,2,3	
	生理食塩液250mL		(リサ゛ーハ゛)	持続点滴	uay 1,2,5	
1コースの期間			投与スケジコ	∟―ル及び総コ・	一ス数	
14日間				2週間隔投与	PDまで	

- ・ベクティビックス投与時は0.2または0.22ミクロンのインラインフィルターを用いて投与すること・持続5FUは5mL/hで46時間投与となるように調製する。

レジメン名称			対象がん種			
ペルツズマブ・トラスツズマブ配合皮下注			がん化学療法後 に増悪したHER2 陽性の治癒切除 不能な進行・再発 の結腸・直腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	 寺間	投与日
1	ペルツズマブ・トラスツズマ ブ配合皮下注	初回 IN 2回目以降 MA	皮下注	皮下注		dayl
1コー	- スの期間		投与スケジュール及び総コース数			
21日					Pl	Dまで
その他(特記事項など) ・INは8分以上かけて ・MAは5分以上かけて						

レジメン名称	対象がん種	適応分類
RAM + nab-PTX	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ点滴静注バッグ デキサート注 ポララミン注	0.75mg/50mL 6.6mg 5mg	点滴	30分	day1,15
1	アロキシ点滴静注バッグ デキサート注	0.75mg/50mL 6.6mg	点滴	30分	day8
2	サイラムザ注 生理食塩液	8mg/kg 250mL	点滴	60分	day1,15
3	生理食塩液	50 mL	点滴	60分	day1,15
4	アブラキサン注 生理食塩液	100mg/m <sup>2</sup> 1バイアルあたり生食 20mLで溶解	点滴	30分	day1,8,15
(5)	生理食塩液	50 mL	点滴	フラッシュ	day1,8,15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間(3投1休)				PD≢	きで

- ・サイラムザはフィルター使用(蛋白透過型のフィルター0.2又は0.22ミクロン)
- ・アブラキサンはフィルター使用不可 ・アブラキサンは壊死性抗癌剤
- ・③の生理食塩液については、サイラムザ2回目までの投与でinfusion reactionがなけれ ば、省略可能・アルコール不耐の患者限定とする

レジメン名			対象がん種			適応分類
S1+CDDP (short hydration)		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与問	 持間	投与日
1	フィジオ140 MgS04補正液	500mL 8 mE q	点滴	500mL	./h	day 8
2	フィジオ140	500mL	点滴	500mL	./h	day 8
3	プロイメンド150m g 生理食塩液	250mL	点滴	500mL	./h	day 8
4	アロキシバッグ デキサート注	50mL 9.9mg	点滴	500mL	./h	day 8
5	生理食塩液 シスプラチン	総量500mL 60m g/m <sup>2</sup>	点滴	500mL	./h	day 8
6	フィジオ140 フロセミド	500mL 20m g	点滴	500mL	./h	day 8
7	フィジオ140	500mL	点滴	500mL	./h	day 8
	TS-1	80mg/m2 下記参照	内服 day 1		day 1~21	
1コースの期間 35日間 (5週間)						総コース数 PDまで継続

- ・TS-1は下記の投与量を1日2回朝夕食後に分割して内服する。 体表面積 1.25未満 : 80mg 、1.25以上1.5未満 : 100mg 、1.5以上:120mg
- ・シスプラチン終了時で飲水500mLできれば⑦の生食は省略可能
- ・治療前日に飲水1000mL, 、 day 9.10に飲水もしくは輸液を1000mL程度行う。
- · Day8, 11, 15に採血(血算、腎機能、電解質)を施行。
- ・遅発性嘔吐対策として、day9~11まで原則としてデカドロン8mg/dayを経口内服する。
- ・外来で施行時:曜日は月曜日ないし木曜日で10時までに治療開始

レジメン名称	対象がん種	適応分類
		■ 進行·再発癌
		□ 術前補助化学療法
S-IROX	膵がん	│ □ 術前化学療法(進行)
		□ 術後補助化学療法
		□ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ点滴静注0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
	デキサート注6.6mg 1V	307]	dayı		
3	オキサリプラチン	85mg/m <sup>²</sup>	点滴 12	120分	day1
	5%ブドウ糖液250mL	1袋		120)	day i
<b>⑤</b>	イリノテカン	150mg/ <b>m</b> i	点滴	120分	day1
	5%ブドウ糖液250mL	1袋			uay i
6	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
	14日			ΡΙ	Dまで

- ・TS-1 20-40mg/㎡ 1日2回 day1-7まで内服 (BSA<1.25㎡:80mg/day、1.25㎡≦BSA<1.5㎡:100mg/day、1.5㎡≦BSA:120mg/day) ・アプレピタント併用

レジメン名	対象がん種	適応分類
S-1+ドセタキセル療法(術後補助化学療法)	胃癌	□ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) ■ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋			
1	ポララミン注5mg	1A	点滴	30分	day1
	デキサート注6.6mg	1瓶			
2	ドセタキセル	40mg/m²	     点滴	60分	day1
	生理食塩液	250mL	<b>派帅</b>	007]	dayı
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
4	TS-1	80mg/m²	経口		day1-14
1⊐—	1コースの期間		投与スケシ	ジュール及び総	コース数
	21日間(3週間)		21日間(3	週間) を1コース	くとして6コース繰り返す

- •TS-1はday1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後、7日間休薬 (体表面積 1.25未満:80mg/day、1.25以上1.5未満:100mg/day、1.5以上:120mg/day)
- ・術後補助化学療法として、1コース目はTS-1単剤を14日間連続投与→7日間休薬にて実施。2コース目から7コース目まで、TS-1+ドセタキセル療法を計6コース実施する。8コース目以降はTS-1単剤を28日間連続投与→14日間休薬を1コースとして術後1年後(10または11コース)まで3または4コース継続する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
S1+CDDP	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン注6.6mg アロキシ静注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day8
1	生理食塩液 デカドロン注1.65mg 生理食塩液	100mL 2A 100mL	点滴 (側管)	30分	day9 <b>∼</b> 10
2	ラシックス注20mg 生理食塩液	1A 100mL	点滴 (側管)	30分	day8
3	ランダ注 生理食塩液	60mg/m <sup>2</sup> 500mL	点滴 (側管)	4時間	day8
	TS-1	80mg/ <b>m</b> i	経口		day1∼21
1⊐—	1コースの期間		投与スケ	ジュール及び総	コース数
35日間(5週間)				S-1はday1から21日 間休薬を1コース ご継続	

- ・ランダ投与開始前日~投与翌日にかけて、5~6000mLのハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎肝 心機能等に応じ投与量などを変更する。
  ・ランダは投与量に相当する生食をボトルから抜いてから混合し、totalとして500mLとする。
- ・ラシックスは尿量に応じ、適宜調節。
- ・支持療法は患者の状態や副作用の発現状況に応じ適宜、変更や増減を行う。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
		■ 進行·再発癌
		□ 術前補助化学療法
SLOG	膵がん	□ 術前化学療法(進行)
		□ 術後補助化学療法
		□ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ点滴静注0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
	デキサート注6.6mg	1V	<b>小</b> 间	307]	dayı
3	ゲムシタビン	800mg/ <b>m</b> i	点滴	30分	day1
	生理食塩液100mL	1瓶	711(7)-3	30,,	uuy.
4	5%ブドウ糖液100mL	50mL	点滴	フラッシュ	day1
<b>⑤</b>	オキサリプラチン	85mg/ <b>m</b> ²	点滴	120分	de.ed
3	5%ブドウ糖液250mL	1袋		1207	day1
6	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
1⊐—	1コースの期間		投与スケシ	ジュール及び総	コース数
	14日			PI	Dまで

- ・TS-1 20-40mg/㎡ 1日2回 day1-7まで内服 (BSA<1.25㎡:80mg/day、1.25㎡≦BSA<1.5㎡:100mg/day、1.5㎡≦BSA:120mg/day) ・ロイコボリン 20mg/㎡ 1日2回 day1-7まで内服

	レジメン名		対象が	ん種		適応分類
	sLV5FU2		結腸・値	<b>直腸癌</b>		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	<b>}</b>	day1
2	アイソボリン 生理食塩液	200mg ∕ m <sup>2</sup> 250mL	点滴	120%	<del>i</del>	day1
3	5-FU 生理食塩液	400mg ∕ m <sup>2</sup> 50mL	点滴	15分以 (全開		day1
4	5-FU 生理食塩液	2400mg∕m <sup>*</sup> total 230mL	インフュー サ゛ーホ゜ンフ゜	46時	間	day1∼3
5						
6	6					
1⊐-	スの期間		投与スケシ	ジュール及	及び総	コース数
14日間(2週間) PDまで継続				で継続		
	也(特記事項など) フューザーポンプは5mL/h <sup>*</sup>	で投与する。	•			
1		<del></del>				

レジメン名称	対象がん種	適応分類
SOX	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート注 6.6mg	1V	点滴	3 0 分	day1
	アロキシバッグ 0.75mg	1袋	71K / PJ	0 0 7	dayı
2	エルプラット	$130 \text{ mg/m}^2$	点滴	120 分	day1
	5% ブドウ糖	500 mL	71K / PJ	120 )	dayı
3	生理食塩液	50 mL	点滴	フラッシュ	day1
4	TS-1	下記参照	内服	1日2回 朝・夕食後	day1∼14
5					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		総コース数	
2 1 日間(3 週間)			PDまで	継続	

#### その他 (特記事項など)

・TS-1は、day1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後7日間休薬する。 投与開始用量は以下の通り、体表面積にて行う。

体表面積 1.25 m²未満: 80mg/day 1.25 m²以上~1.5 m²未満: 100mg/day

1.5 m<sup>2</sup>以上 : 120 mg/day

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベバシズマブ+SOX	結腸・直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート注 6.6mg	17	点滴	30分	day1
	アロキシバッグ 0.75mg	1袋			
2	ベバシズマブ	7.5 mg/kg	     点滴	初回90分 2回目60分	day1
	生理食塩液	100 mL		3回目30分	,
3	エルプラット	$130 \text{ mg/m}^2$	点滴	120 分	day1
	5% ブドウ糖	500 mL		120 )	uayi
4	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
5	TS-1	下記参照	内服	1日2回 朝・夕食後	day1∼14
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		総コース数	
2 1 日間(3 週間)				プラットは1投2休 内服後7日休薬 で	

#### その他 (特記事項など)

- ・ベバシズマブは初回90分で点滴し、問題なければ次回から60分に。 60分で問題なければ30分に点滴速度を変更して投与する。
- ・TS-1は、day1の夕食後から開始し、day15の朝食後まで服用後7日間休薬する。 投与開始用量は以下の通り、体表面積にて行う。

体表面積 1.25 m<sup>2</sup>未満: 80mg/day 1.25 m<sup>2</sup>以上~1.5 m<sup>2</sup>未満: 100mg/day

1.5 m<sup>2</sup>以上 : 120 mg/day

レジメン名称	対象がん種	適応分類
SOX100+トラスツズマブ	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ点滴静注バッグ	0.75mg/50mL	点滴	30分	day1
	デキサート注射液	6.6mg/2mL	N(V)=J	307,	ady i
2	エルプラット点滴静注液	100mg/ <b>m</b> i	     点滴	120分	day1
	ブドウ糖注5%バッグ	500mL	八心	120)]	uayı
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
4	ハーセプチン	6mg/kg (初回のみ8mg/kg)	点滴	30分 (初回のみ90	day1
	生理食塩液	250mL		分)	
	TS-1	下記参照	経口		day1∼day14
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		総コース数	
21日間(3週間)		21	日間を1コース。 PDまで	として繰り返す。 継続	

#### その他 (特記事項など)

- ·CDDP使用不可症例に限る
- •TS-1はday1の夕食後から開始し、day15朝食後まで服用後7日間休薬

体表面積 1.25未満:80mg/day、1.25以上1.5未満:100mg/day、1.5以上:120mg/day

- ・ハーセプチンは初回90分で点滴し、忍容性が良好であれば2回目以降、30分まで投与時間を短縮可能とする。
- ・ハーセプチンは予定投与日より1週間を超えた後に投与する場合、初回量8mg/kgを投与する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
S0X130+トラスツズマブ	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	アロキシ点滴静注バッグ	0.75mg/50mL	点滴	30分	day1	
	デキサート注射液	6.6mg/2mL	流冲	30)	uay i	
2	エルプラット点滴静注液	130mg/ <b>m</b> ²	     点滴	120分	day1	
	ブドウ糖注5%バッグ	500mL	が伸	120)	uayı	
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1	
<b>4</b>	ハーセプチン	6mg/kg (初回のみ8mg/kg)	点滴	30分 (初回のみ90	day1	
	生理食塩液	250mL		分)	,	
	TS-1	下記参照	経口		day1∼day14	
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		総コース数		
21日間(3週間)		21	日間を1コース。 PDまで	として繰り返す。 継続		

- ·CDDP使用不可症例に限る
- •TS-1はday1の夕食後から開始し、day15朝食後まで服用後7日間休薬
- 体表面積 1.25未満:80mg/day、1.25以上1.5未満:100mg/day、1.5以上:120mg/day
- ・ハーセプチンは初回90分で点滴し、忍容性が良好であれば2回目以降、30分まで投与時間を短縮可能とする。
- ・ハーセプチンは予定投与日より1週間を超えた後に投与する場合、初回量8mg/kgを投与する。

レジメン名称		対象カ	対象がん種		適応分類	
ストレプトゾシン+5FU		膵神経内分泌癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	<b>詩間</b>	
1	フィジオ140 500mL	1本	点滴	605	}	day1-5
2	ソルデム3A 500mL	1本	点滴	605	}	day1-5
3	パロノセトロンバッグ デキサート注	1本 9.9mg	点滴	30%	<del>}</del>	dayl
4	ザノサー 生理食塩液500mL	500mg/㎡ 1袋	点滴	1時間	튁	day1-5
(5)	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ		day1-5
6	5FU 生理食塩液	400mg/m² 50mL	点滴	305	<del>}</del>	day1-5
7	フィジオ140 500mL	1本	点滴	605	<del>)</del>	dayl-5
8	ソルデム3A 500mL	1本	点滴	605	}	day1-5
9	生理食塩液デキサート注	100mL 6.6mg	点滴	305	}	day2-3
1コー	 スの期間	•	投与スケジュール及び総コース数			コース数
42日		PDまで				
その代	也(特記事項など)					

レジメン名称	対象がん種	適応分類
トラスツズマブ デルクステカン	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート グラニセトロンバッグ	6.6mg 3mg/100mL	点滴	15分	Day1
2	5%ブドウ糖液	100mL	点滴	フラッシュ	Day1
3	トラスツズマブ デルクステカン 5%ブドウ糖液	6.4mg/kg 100mL	点滴	90分 (2回目以降30 分)	Day1
4	5%ブドウ糖液	100mL	点滴	フラッシュ	Day1
5					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
3週間				P[	Oまで

- •3次治療以降
- •0.2  $\mu$  mのインラインフィルター(ポリエステルスルホン製またはポリスルホン製)を通して投与すること。
- ・本剤と生理食塩液との混合を避け、生理食塩液と同じルートを用いた同時投与は行わないこと。
- ・点滴バッグを遮光すること。 ・室温で4時間以内、2-8°Cで24時間以内。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
triweekly アブラキサン	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート6.6mg 生理食塩液	1 V 100mL	点滴	30分	d a y 1
2	アブラキサン 生理食塩液	260mg/m <sup>2</sup> 100mL (※)	点滴	30分	day1
3	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day1
4					
(5)					
6					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
	21日(3週間)			PDまで	で継続

- ・アブラキサン1Vに対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。

	レジメン名		対象が	ん種	適応分類	
	triweekly DT	-x	胃癌、食道癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時		投与日
	カイトリルバッグ3mg	1袋				
1	ポララミン注5mg	1A	点滴	30%	<del>}</del>	day1
	デキサート注6.6mg	1V				
	ドセタキセル	<b></b> %60mg/ <b>m</b> ²́	F >+	00/		
2	生理食塩液250mL	1V	点滴	60分		day1
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシ	ンュ	day1
4						
5						
6						
1⊐—	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
21日(3週間)						
その他(特記事項など) ドセタキセルの用量は、胃癌には、60mg/㎡、食道癌には70mg/㎡とする。						

レジメン名称	対象がん種	適応分類
triweekly アブラキサン	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	
1	デキサート6.6mg 生理食塩液	1 V 100mL	点滴	30分	day1
2	アブラキサン 生理食塩液	260mg/m <sup>2</sup>	点滴	30分	d a y 1
3	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day1
4					
5					
6					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
21日(3週間)				PD\$	で継続

- ・アブラキサン1Vに対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
トレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法	切除不能 肝細胞癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生食50mL	50 m L	点滴	全開	day1
2	トレメリムマブ	300mg/body	点滴	60分	day1
	生食250mL	250 m L			
3	生食50mL	50 m L	点滴	フラッシュ	day1
4	デュルバルマブ	1500m g	点滴	60分	day1
	生食250mL	250mL			
(5)	生食50mL	50 m L	点滴	フラッシュ	day1
(9)					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
			1コース目		
28日間(4週間)			※2コース目以降はデュルバルマブを4週間間隔で		
			PDまで		

- ・インラインフィルター(0.2又は $0.22 \mu$  m)使用。
- ・同一の点滴ラインを使用して他の薬剤を同時投与しない。
- ・初回のみイミフィンジ+イジュド併用とする。
- ・イジュドの投与量については体重が30kg以下の場合は4mg/kgとする。
- ・イミフィンジの投与量については体重が30kg以下の場合は20mg/kgとする。
- ・2コース目以降はデュルバルマブ単剤で継続

	レジメン名 		対象が	対象がん種		適応分類 ———————————	
2外 TS-1+ドセタキセル療法		胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時		投与日	
1	グラニセトロンバッグ3mg デキサート6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	}	day1	
2	ドセタキセル 生理食塩液	40mg/m² 250mL	点滴	60分	}	day1	
3	TS-1	80mg/m²	経口			day1−14	
4							
5							
6							
1⊐-	· スの期間		投与スケジュール及び総コース数				
21日間(3週間)			21日間(3週間)を1クールとして繰り返す。 PDまで継続				
その他(特記事項など) ドセタキセルの溶解には原則添付溶解液(アルコール含有)を用いて行う。 アルコール過敏症の患者については、患者登録時にその旨を記載すること。 ⇒生理食塩液溶解法を用いて作成する。							

レジメン名称	対象がん種	適応分類
weekly アブラキサン	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日		
1	デキサート6.6mg 生理食塩液	1 V 100mL	点滴	30分	day1		
2	アブラキサン 生理食塩液	100mg/m <sup>2</sup> 50mL (※)	点滴	30分	day1		
3	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day1		
4							
(5)							
6							
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数				
21日(3週間)				PDā	まで継続		

- ・アブラキサン1Vに対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。

	レジメン名		対象が	対象がん種		適応分類	
Weekly CPT-11		胃癌 大腸癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日	
1	カイトリルバッグ3mg	1袋	点滴	30分	<b>)</b>	day1,8,15	
2	トポテシン 生理食塩液	80-100mg/m² 500mL	点滴	90 <del>/</del> 3	}	day1,8,15	
3							
4							
5							
6							
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数					
28日間(4週間)			3投1休を1クールとして繰り返す。 PDまで継続				
患者に							

・テカトロン注をカイトリルに底合し、削反子9の場合のり。 ・カイトリルバッグをpostメディケーションとして追加投与する場合あり。

レジメン名			対象がん種		適応分類	
	weeklyパクリタキセル療法		胃癌 悪性軟部腫瘍(肉腫) 食道癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法 投与時		間	投与日
	デカドロン注6.6mg	17			•	

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
	デカドロン注6.6mg	1V				
(1)	ガスター注	1A	点滴	全開で	day1,8,15	
	ポララミン注	ЗА	派旭	(5分程度)	day 1,0,10	
	生理食塩液	50mL				
2	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1,8,15	
3	パクリタキセル	60~80mg/m²	点滴	60分	day1,8,15	
	生理食塩液	250mL				
4	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1,8,15	
1⊐—	スの期間		投与スケジュール及び総コース数			
	28日間(4週間)		3投1休で繰り返す。 PDまで継続			
その化	その他(特記事項など)					

レジメン名	対象がん種	適応分類
Xeloda+CDDP	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	デカドロン注6.6mg	-   占海		()	
	アロキシ静注	1V	(側管)	30分	day1
	生理食塩液	100mL			
1	デカドロン注1.65mg	2A	点滴	30分	day2, 3
	生理食塩液	100mL	(側管)		
2	ラシックス注20mg	1A	点滴	30分	day1
	生理食塩液	100mL	(側管)	307)	
3	ランダ注	80mg/ <b>m</b> ²	点滴	4時間	day1
	生理食塩液	Total 500mL	(側管)	44寸[#]	
	ゼローダ	下記参照	経口		day1∼14
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
21日間(3週間)					の夕から14日間 売服用後7日間休薬

- ・ゼローダはday1の夕食後から以下の投与量(1回量として)で開始し、day15の朝食後までとする。
- 体表面積 1.36未満:1,200mg 、 1.36以上1.66未満:1,500mg 、 1.66以上1.96未満:1,800mg 1.96以上:2,100mg
- ・ランダ投与開始前日〜投与翌日にかけて、5〜6000mLのハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎肝心機能等に応じ投与量などを変更する。
- ・ラシックスは尿量に応じ、適宜調節。
- ・支持療法は患者の状態や副作用の発現状況に応じ適宜、変更や増減を行う。イメンドを併用す

レジメン名	対象がん種	適応分類
XELOX	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシバッグ0.75mg デキサート注	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1
2	エルプラット	130mg∕m <sup>†</sup>	点滴	120分	day1
	5%ブドウ糖	500mL			
3	生理食塩液50mL	1V	点滴	フラッシュ	day 1
	ゼローダ	下記参照	内服	1日2回 朝夕食後すぐ	day1 <b>~</b> 14
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間(3週間)			エルプラットは1投2休 ゼローダは14日間内服後7日休薬 進行・再発にはPDまで 術後補助療法は8コース施行		

#### その他(特記事項など)

・ゼローダはday1の夕食後から以下の投与量(1回量として)で開始する。

体表面積 1.36未満:1,200mg 、 1.36以上1.66未満:1,500mg 、 1.66以上1.96未満:1,800mg

1.96以上: 2,100mg

・術後補助療法に使用する場合は、イメンド(3日間)及びデカドロン4mg(day2,3)を併用する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
XELOX	結腸•直腸癌 小腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) ■ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	生理食塩液100mL	1V			
1	アロキシ注0.75mg	1V	点滴	30分	day1
	デカドロン注6.6mg	1V			
2	エルプラット	130mg∕ <b>m</b> <sup>2</sup>	点滴	120分	dov1
	5%ブドウ糖	250mL		120万	day1
3	生理食塩液50mL	1V	点滴	200mL/hで フラッシュ	day 1
	ゼローダ	下記参照	内服	1日2回 朝夕食後す ぐ	day1∼14
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間(3週間)			エルプラットは1投2休 ゼローダは14日間内服後7日休薬 PDまで		

#### その他(特記事項など)

・ゼローダはday1の夕食後から以下の投与量(1回量として)で開始する。

体表面積 1.36未満:1,200mg 、 1.36以上1.66未満:1,500mg 、 1.66以上1.96未満:1,800mg

1.96以上:2,100mg

レジメン名	対象がん種	適応分類
XELOX+Trastuumab	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシバッグ0.75mg	1袋	上法	20/\	J 4
	デキサート注	6.6mg	点滴	30分	day1
2	エルプラット	130mg∕ m <sup>*</sup>	上法	1204	al a •1
	5%ブドウ糖	500mL	点滴	120分	day1
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1
4	ハーセプチン	初回 8mg/kg 2回目以降 6mg/kg	点滴	90分	day 1
	生理食塩液	250mL			
	ゼローダ	下記参照	内服	1日2回 朝夕食後す ぐ	day1∼14
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		総コース数	
21日間(3週間)		ゼロ	エルプラット 一ダは14日間 PD a	引内服後7日休薬	

#### その他(特記事項など)

・ゼローダはday1の夕食後から以下の投与量(1回量として)で開始する。

- ・ハーセプチンは初回90分で点滴し、忍容性に問題なければ2回目以降、30分で点滴可能
- ・ハーセプチンは次回点滴予定日より1週間以上遅れて開始(day30以降)する場合は、初回量(8mg/kg)投与する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
XELIRI	大腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	アロキシ注0.75mgバッグ デキサート6.6mg	1バッグ 1V	点滴	30分	day 1
2	カンプト点滴静注 生理食塩液	200mg/m² 500mL	点滴	90分	day 1
3	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day 1
5	ゼローダ	1600mg/㎡/day (下記参照)	内服		day 1~15
6					
1 🗆 -	1コースの期間		投与スケ	ジュール及び紅	総コース数
21日(3週間)				PDā	<b>まで</b>

- ・ゼローダはday 1の夕食後から開始し、day 15の朝食後まで服用後7日間休薬
- ・ゼローダの標準投与量は体表面積に合わせて次に基づき投与する。
- 1,31m²未満:1800mg/日 1,31以上1,69m²未満:2400mg/日 1,69以上2,07m²未満:3000mg/日
- 2,07m<sup>2</sup>以上:3600mg/日 ・UGT1A1の遺伝子多型を測定し、ホモ又はダブルヘテロの場合はカンプトの投与量を 150mg/m2に減量する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
XP(Xeloda+CDDP)+ハーセプチン	胃癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
2	デキサート注6.6mg アロキシバッグ	1V 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
1	ハーセプチン	6mg/kg (初回8mg/kg)	 点滴 (側管)	90分	day1
	生理食塩液	250mL			
②'	デキサート注1.65mg	2A	点滴 (側管)	204	d0 0
	生理食塩液	100mL		30分	day2, 3
	フロセミド注20mg	1A	点滴 (側管)	00/	day1
3	生理食塩液	100mL		30分	
	シスプラチン注	80mg/ <b>m</b> ²	点滴	4.0+88	
4	生理食塩液	Total 500mL	(側管)	4時間	day1
	ゼローダ	下記参照	経口		day1∼14
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		コース数	
21日間(3週間)		ぜい	ローダはday10	ラチンはday1のみ、 Dタから14日間 売服用後7日間休薬 Dまで継続	

- ・ゼローダはday1の夕食後から以下の投与量(1回量として)で開始し、day15の朝食後までとする。 体表面積 1.36未満:1,200mg 、1.36以上1.66未満:1,500mg 、1.66以上1.96未満:1,800mg 1.96以上:2,100mg
- ・ゼローダによるHFSの予防のため、内服開始時より保湿クリームによる皮膚保護を実施する。
- ・ランダ投与開始前日~投与翌日にかけて、5~6000mLのハイドレーションを実施し、年齢・体重・腎肝心機能等に応じ投与量などを変更する。
- ・ラシックスは尿量に応じ、適宜調節。
- ・支持療法は患者の状態や副作用の発現状況に応じ適宜、変更や増減を行う。イメンドを併用する。
- ・ハーセプチンは初回90分で点滴し、忍容性が良好であれば2回目以降、30分まで短縮可能とする。
- ・ハーセプチンは予定投与日より1週間を超えた後に投与する場合、初回量の8mg/kgを投与する。
- ・その他、休薬及び再開に関する基準等については、ToGA studyの基準に基づき施行する。

レジメン名	対象がん種	適応分類
アービタックス	EGFR陽性の治癒 切除不可能な進 行・再発の結腸・ 直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法
		│ □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン注8mg ポララミン注5mg ガスター注20mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開で (約 5分)	day 1
2	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day 1
3	アービタックス注 生理食塩液	250mg/㎡ (初回は400mg/㎡) 250mL (初回は500mL)	点滴	60分 (初回は 120分)	day 1
4	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	250mL/h	day 1
1コースの期間		投与スケシ	ジュール及び総	コース数	
7日(1週間)			毎週投与 P	Dまで継続	

- ・投与前のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。
- ・初回は400mg/㎡を2時間で、2回目以降は250mg/㎡を1時間かけて点滴する。
- ・アービタックス終了後は、同じ速度で生食フラッシュを行い、その後 1時間経過観察とする。
- ・アービタックスによるGrade3以上の皮膚症状が発現した場合は、添付文書に基づき、次回からの投与量の調節を行うこと。

### がた薬物療法しぶれた

	レジメン名	, 1	対象が	い種		適応分類
	アービタックス+	FOLFIRI	EGFR陽性 切除不可 行·再発· 直腸	∫能な進 の結腸・		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	·間	投与日
1	デカドロン注6.6mg ポララミン注5mg ガスター注20mg	1V 1A 1A	点滴	全開 <sup>7</sup> (約 5分		day 1,8
	生理食塩液	50mL				
2	アロキシ注 生理食塩液100mL	1V	点滴	30分		day 1
3	アービタックス注 生理食塩液	250mg/㎡ (初回は400mg/㎡) total 250mL (初回は500mL)	点滴	60分 (初回) 120分	は	day 1,8
4	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	250mL	/h	day 8
6	レボホリナート 生理食塩液	200mg∕ m <sup>2</sup> 250mL	点滴	120分	}	day 1
側	トポテシン注 生理食塩液	150mg∕ m <sup>2</sup>	⑥の側 管から	⑥と同日 開始し9 で		day 1
7	5-FU 生理食塩液	400mg ∕ m <sup>2</sup> 50mL	点滴	全開	C	day 1
8	5-FU 生理食塩液	2400mg∕m <sup>²</sup> total 92mL	インフュー サ゛ーポン プ	46時間	亅	day 1
1 –	· スの期間		投与スケ	ジュール	及び約	総コース数
	14日(2週間	引)	3	<b>FOLFIRI</b>	はbiv	スは毎週投与 veeklyで投与 CPDまで継続

- アービタックス投与前のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。アービタックスによるG3以上の皮膚症状発現時は、添付文書に基づき、投与量の調節を行うこと。

レジメン名	対象がん種	適応分類
アービタックス+biweekly CPT-11	EGFR陽性の治癒 切除不可能な進 行・再発の結腸・ 直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン注8mg ポララミン注5mg ガスター注20mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開で (約 5分)	day 1,8,15,22,29,36,43
2	カイトリルバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 1,15,29
2	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day 8,22,,36,43
3	アービタックス注 生理食塩液	250mg/㎡ (初回は400mg/㎡) 250mL (初回は500mL)	点滴	60分 (初回は 120分)	day 1,8,15,22,29,36,43
4	生理食塩液	100mL	フラッシュ用	250mL/h	day 1,15,29
4	生理食塩液	50mL	フラッシュ用	250mL/h	day 8,22,,36,43
5	<b>経過観察</b>			1時間以上	day 1,8,15,22,29,36,43
6	トポテシン注 生理食塩液	150mg/m <sup>2</sup> 500mL	点滴	90分	day 1,15,29
1⊐—	1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数		
	50日(7週間)			アービタックス ノはbiweeklyで を1コースとして	3回投与後3週間休薬

- ・アービタックス投与前のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。
- ・アービタックス終了後は、同じ速度で生食フラッシュを行い、その後経過観察とする。なお、
- day8,22,36,43はフラッシュ終了後は抜針し、経過観察とする。
  -アービタックスによるGrade3以上の皮膚症状が発現した場合は、添付文書に基づき、次回からの投 与量の調節を行うこと。

レジメン名	対象がん種	適応分類
アービタックス+CPT-11	EGFR陽性の治癒 切除不可能な進 行・再発の結腸・ 直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デカドロン注6.6mg ポララミン注5mg ガスター注20mg 生理食塩液	1V 3A 1A 50mL	点滴	全開で (約 5分)	day 1,8,15,22,29,36
2	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 1,8,15,22
2	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day 29,36
3	アービタックス注 生理食塩液	250mg/m <sup>*</sup> (初回は400mg/m <sup>*</sup> ) 250mL (初回は500mL)	点滴	60分 (初回は 120分)	day 1,8,15,22,29,36
4	生理食塩液	100mL	フラッシュ用	250mL/h	day 1,8,15,22,29,36
<b>⑤</b>	<b>経過観察</b>			1時間以上	day 1,8,15,22,29,36
6	カンプト生理食塩液	100mg/m <sup>2</sup> 500mL	点滴	90分	day 1,8,15,22
1⊐—	1コースの期間		投与スケシ	ジュール及び総	コース数
	42日(6週間)		   トポ <del>・</del>	アービタックス テシンは4投2り PDまて	木として繰り返す。

- ・アービタックス投与前のプレメディケーションについては、患者の状態に合わせて増減する。
- ・アービタックス終了後は、同じ速度で生食フラッシュを行い、その後経過観察とする。なお、day29,36はフラッシュ終了後は抜針し、経過観察とする。
- ・アービタックスによるGrade3以上の皮膚症状が発現した場合は、添付文書に基づき、次回からの投与量の調節を行うこと。

	レジメン名		対象が	バん種		適応分類
	2外 アイソボリン/5-FU	動注併用	大腸癌		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	······· f間	投与日
1	セロト―ン注10mg 5%ブドウ糖液	1A 100mL	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day 1,8,15,22,29,36
2	アイソボリン ヴィーンD	250mg/m² 500mL	点滴	120分		day 1,8,15,22,29,36
3	5-FU	250mg	動注	②開始1時間 後に動注		day 1,8,15,22,29,36
4	5-FU	600mg/m²-250mg	静注	②開始11 後に静注		day 1,8,15,22,29,36
5						
6						
1⊐—	· ·スの期間		投与スケ	ジュール及	ひ総	
	56日間(8週間)			与。6投2 <sup>,</sup> 続。	休で1	クールとして繰り返す。
その他(特記事項など)						

	レジメン名		対象が	べ種	適応分類		
	2外 アイソボリン/	′5–FU	大腸癌□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日	
1	セロトーン注10mg 5%ブドウ糖液	1A 100mL	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day 1,8,15,22,29,36	
2	アイソボリン ヴィーンD	250mg/m² 500mL	点滴	120分		day 1,8,15,22,29,36	
3	5-FU	600mg/m²	静注	②開始1時間 後に側管から		day 1,8,15,22,29,36	
4							
5							
6							
1コースの期間 8週間(6投2休)				与。6投2体 には3クー	トで1ク ル、Ⅱ	7ールとして繰り返す。 Ibには6クール、再発・	
その他	也(特記事項など)						

	レジメン名		対象が	対象がん種		適応分類	
2	2外 アイソボリン/5-FU/CPT-11 動注併用		大腸癌		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日	
1	セロト―ン注10mg 5%ブドウ糖液	1A 100mL	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day 1,8,15,22,29,36	
2	アイソボリン ヴィーンD	250mg/m² 500mL	点滴	1205	<del>}</del>	day 1,8,15,22,29,36	
3	5-FU	250mg	動注	②開始11 後に動注		day 1,8,15,22,29,36	
4	5-FU	600mg/m²-250mg	静注	②開始11 後に静注		day 1,8,15,22,29,36	
5	CPT-11 5%ブドウ糖液	80-100mg/m² 500mL	静注	②開始1時間 後、5-FU iv後 に120分かけ て静注		day1,15,29	
1⊐—	スの期間	•	投与スケ	ジュール及	ひ総	コース数	
56日間(8週間)						7ールとして繰り返す。 与。PDまで継続。	
そのfl	也(特記事項など)						

	レジメン名		対象がん種			適応分類		
	2外 アイソボリン/5-FI	P外 アイソボリン/5-FU/CPT-11		大腸癌		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日		
1	セロトーン注10mg 5%ブドウ糖液	1A 100mL	点滴	30分	<b>&gt;</b>	day 1,8,15,22,29,36		
2	アイソボリン ヴィーンD	250mg/m² 500mL	点滴	120分		120分		day 1,8,15,22,29,36
3	5-FU	600mg/m²	静注	②開始1時間 後に側管から		day 1,8,15,22,29,36		
4	カンプト 5%ブドウ糖液	80-100mg/m² 500mL	点滴	②開始1 後、5-Fu に側管: 120分か	ı iv後 から	day 1,15,29		
5								
1⊐-	.スの期間		投与スケ	ジュール及	び総	コース数		
	56日間(8週間)					7ールとして繰り返す。 与。PDまで継続。		
その他(特記事項など)								

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アブラキサン+ゲムシタビン療法	膵癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
1	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	全開	d a y 1, 8, 15	
	デキサート注	6.6m g	上法	2045	. 1 0 1E	
2	生理食塩液	100mL	点滴 	30分	d a y 1, 8, 15	
	アブラキサン	125mg/m²	上法	2045	. 1 0 15	
3	生理食塩液	100mL	点滴	30分	d a y 1, 8, 15	
4	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1, 8, 15	
	ジェムザール	1000m g/m²	<b>-</b> :±		- >+-	1 0 15
5	生理食塩液	100mL	点滴 	30分	d a y 1, 8, 15	
6	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	d a y 1, 8, 15	
1 = -	1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日(4週間)			4 週間を	₹1コース(3∄ す。 PDまで		

### その他(特記事項など)

・必要時Day 2 ~ 3 にデカドロン錠 4 m g (1日1回)を経口投与する。

	レジメン名		対象がん種			適応分類	
ザノサー		膵·消化管神経内 分泌腫瘍			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
	10 5 ++ +-		18 5 54	10 5 0		In 5 -	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日	
1	フィジオ140	500mL	点滴	60分	<u>}</u>	day1	
	フィジオ140	500mL	点滴	60 <del>%</del>	}	day1	
2	デキサート注6.6mg デキサート注1.65mg アロキシバック	1V 2A 1袋	点滴	30分		day1	
3	ザノサー生理食塩液	1000~1500mg/m <sup>2</sup> 500mL	点滴	60 <del>%</del>	}	day1	
4	フィジオ140	500mL	点滴	60 <del>/.</del>	}	day1	
1⊐—	スの期間		投与スケ	ジュール及	とび総	コース数	
7日間					PDā	きで	
	也(特記事項など) ド併用						

レジメン名称	対象がん種	適応分類
GEM2投1休+TS-1併用療法	膵臓癌 胆道癌	■ 進行・再発癌 □ 術前化学療法 □ 術後化学療法 □ 大量化学療法 □ 局所療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシバッグ0.75mg	1袋			
1	デキサート注	3. 3mg	   点滴	30分	day1. 8
	生理食塩液	100mL			
	ジェムザール注	1000mg/m²	F > <del>+</del>	20.43	dent 0
2	生理食塩液	100mL	点滴 	30分	day1. 8
3	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1.8
4	TS-1	80mg/m <sup>2</sup>	内服		下記参照
5					
1コースの期間		投与スケジュール及び総コース数			
2 1 日(3 週間)				PDā	<b>まで</b>

- ・TS-1は連日内服の場合、下記の量を朝夕食後1日2回に分割し、day1~14内服。 体表面積 1.25未満 : 60mg 、1.25以上1.5未満 : 80mg 、1.5以上 : 100mgTS-1は下記の量を朝夕食後1日2回に分割し、day1~14日間連日内服を行う。
- ・忍容性に問題がなければ、2コース目からは、TS-1の量を下記に増量可能とする。 体表面積 1.25未満 : 80mg 、1.25以上1.5未満 : 100mg 、1.5以上 : 120mg ・<u>膵臓癌については、</u>TS-1は、連日内服による副作用軽減を目的とする場合、隔日投与(月・水・金・日内服)で行う場合もあり。

	レジメン名		対象が	対象がん種		適応分類	
	2外 ジェムザール:	3投1休	■ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日	
1	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30 <del>/</del> 3	}	day1,8,15	
2	ジェムザール 生理食塩液	1000mg/m² 100mL	点滴	30分		day1,8,15	
3							
4							
5							
6							
1⊐—	スの期間		投与スケジュール及び総コース数				
28日間(4週間)			-			ご継続 法には6コース	

レジメン名			対象がん種			適応分類	
ニボルマブ			胃癌 食道癌	į		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
WF ===	+∿ ⊢ ☆ 女』	4 D +D. F. B	+n. ⊢ >+	+л. ⊢ n-	 - 88	40. F F	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	前	投与日	
1	オプジーボ 生理食塩液	240mg/body 100mL	点滴	30分		day1	
2	生理食塩液(フラッシュ)	50mL	点滴	15分		day1	
1⊐—	スの期間		投与スケジュー	-ル及び約	않 <b>그</b> ㅡ.	ス数	
	14日(2週間)	PDまで継続					
その他	也(特記事項など)						
infusio	インラインフィルター(0.2または0.22μm)を使用して投与する。 nfusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。 4週間間隔で投与する場合は、480mg/bodyとする。						

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ニボルマブ+イピリムマブ併用療法	がん化学療法後 に増悪したMSI-H を有する結腸・ 直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生食50mL ポララミン5mg	1瓶 1A	点滴	15分	day1
2	オプジーボ 生食100mL	240mg/body 76mL	点滴	30分	day1
3	生食50mL	1瓶	点滴	30分	day1
4	ヤーボイ 生食50mL	1mg/kg 1瓶	点滴	30分	day1
5	生食50mL	1瓶	フラッシ <i>=</i>	5分	day1
6					
1 = -	ースの期間		投与スケ	ジュール及び紅	※コース数
	21日			ニ計4コース実施療法としてニア	施 ボルマブ単剤を繰り返す

- ・フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤、オキサリプラチン及びイリノテカン塩酸塩水和物 による化 学 療法歴があること - ニボルマブ、イピリムマブ共にインラインフィルター使用 - ニボルマブ、イピリムマブ共にインラインフィルター使用 の濃度になるように調製

- ・維持療法は、ニボルマブ240mg/bodyを2週間間隔もしくはニボルマブ480mg/bodyを4週間隔で施 行する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ニボルマブ+イピリムマブ併用療法	根治切除不能な 進行・再発の食道 癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1,22
2	オプジーボ	360mg/body	点滴	30分	dout 22
	生理食塩液100mL	1瓶		3027	day1,22
3	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	30分	day1,22
4	ヤーボイ	1mg/kg	点滴	30分	day1
<u> </u>	生理食塩液50mL	1瓶	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	30)]	uayi
5	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
6					
1⊐—	スの期間		投与スケシ	ジュール及び総	コース数
6週 (42日)			PΩ	Oまで	

- •1次治療のみ
- ・インラインフィルター (0.2または0.22 μm) を使用して投与する ・ヤーボイは合計40mLになるように調製する

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ベクティビックス+CPT-11	結腸・直腸がん	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン	1 袋 6. 6mg	点滴	30分	d a y 1
2	ベクティビックス	6mg/kg	点滴	60分	d a y 1
3	生理食塩液生理食塩液	50mL	点滴	15分	d a y 1
	トポテシン	150mg/m²			
4	生理食塩液	500mL	点滴	90分	day1
5	生理食塩液	50mL	点滴	全開	d a y 1
1 = -	ースの期間		投与スケ	ジュール及び	総コース数
1 4 日(2 週間)			1投1休で PDa		

- ・本レジメンはKRAS wild-typeの症例に対してのみ使用する。 ・ベクティビックス投与時は、インラインフィルターを使用する。

	レジメン名和	尓	対象が	べ種		適応分類
	ベクティビックス	ス単剤	大腸	揚癌		進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	計間	投与日
1	ベクティビックス 生理食塩液	6mg/kg 100mL	点滴	60	分	day 1
2						
3						
4						
5						
1 🗆 -	- ースの期間		投与スケ	ジュール	及び	 総コース数
	1 4 日間(2 词	<u>制</u> )				ıースとして 繰り返す
	也(特記事項など) クティビックス投与時は、	0. 2 μ mのインラ	インフィル	<b>ッターを</b> 値	吏用す	- a

レジメン名	対象がん種	適応分類
べバシズマブ+mFOLFOX6	結腸·直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	デカドロン注6.6mg	1V			
1	アロキシ注0.75mg	1V	点滴	30分	day1
	生理食塩液	100mL			
2	ベバシズマブ	5mg/kg	上法	初回90分	J 1
	生理食塩液	100mL	点滴 	2回目60分 3回目30分	day1
3	レボホリナート	200mg∕ m <sup>2</sup>	占法	1204	dov.1
	5%ブドウ糖	250mL	点滴 	120分	day1
	エルプラット	85mg∕ <b>m</b> <sup>1</sup>	③の側管	③と同時に開	J 1
4	5%ブドウ糖	250mL	から点滴	始し120分で	day1
(5)	5-FU	400mg∕ <b>m</b> <sup>*</sup>	点滴	15分以内	dov1
	生理食塩液	50mL		(全開)	day1
6	5-FU	2400mg∕ <b>m</b> i̇́	インフュー	46時間	day1∼3
	生理食塩液	total 230mL	サ゛ーホ゜ンフ゜	40時[日]	dayı
1⊐—	スの期間		投与スケシ	ジュール及び総	コース数
	14日間(2週間)			PDまで	·継続

その他(特記事項など)

・インフューザーポンプは5mL/hで投与する。

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ラムシルマブ+FOLFIRI	治癒切除不能な 進行・再発の結 腸・直腸癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法 □ 術後補助化学療法 □ おんしゅう である またが できまる できます できます できます できます かいしょう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はいいい はい

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	テ゛キサート注6.6mg ポ゚ ララミン注5mg アロキシハ゛ック゛	1V 1A 50ml	点滴	30分	day1
2	サイラムザ 生理食塩液	8mg/kg 250ml	点滴	60分	day1
3	生理食塩液	100m l	点滴	60分 (観察期 間)	day1
4	レボホリナート 生理食塩液	200mg/m2 250ml	点滴	120分	day1
(5)	カンプ <sup>°</sup> ト 生理食塩液	150mg/m2 250ml	⑤の側 管から 点滴	⑤と同時に 開始し90分 で	day1
6	5-FU 生理食塩液	400mg/m2 50ml	点滴	15分以内 (全開で)	day1
7	5-FU 生理食塩液	2400mg/m2 total 92ml	インフュ− ザ−ポン プ	46時間	day1∼3
1 = -	ースの期間		投与スケ	ジュール及び紅	<u></u> 総コース数
			PD又は容認しがたい毒性が発現するまで継続		

- ・最初の1サイクルIR観察期間 ・2サイクル以降IR観察期間省略可 ・2nd ライン以降での処方

レジメン名称			対象が	がん種		適応分類
ラムシルマブ+イリノテカン併用療法		根治切除不能な 進行・再発胃癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日
	デキサート注6.6mg	1瓶				
(1)	ガスター注20mg	1A	上法	全開		dov 1
<b>(</b> )	ポララミン注5mg	1A	点滴 			day 1
	生理食塩水	50ml				
2	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分		day 1
	ラムシルマブ	8mg/kg	F > ±	60分		day 1
3	生理食塩水	250ml	点滴 			
4	生理食塩水	100ml	点滴	60分 (観察期間)		day 1
<u>(5)</u>	イリノテカン	150mg/m2	上法	00/		
<u> </u>	生理食塩水	500ml	点滴	905	מ'	day 1
6	生理食塩水	50ml	点滴	フラッ:	シュ	day 1
1⊐-	- -スの期間		投与スケ	ジュール	 及び総	コース数
	14日間(2週)			2週間を		ルとして繰り返す きで継続

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ラムシルマブ+パクリタキセル療法	治癒切除不能な 進行・再発の胃 癌	■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	デキサート注 ガスター注20mg ポララミン注5mg 生理食塩液	6.6ml 1A 1A 50ml	点滴	全開	day1, 8, 15
2	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1, 8, 15
3	サイラムザ 生理食塩液	8mg/kg 250ml	点滴	60分	day1, 15
4	生理食塩液	100ml	点滴	60分 (観察期 間)	day1, 15
5	パクリタキセル 生理食塩液	80mg/m2 250ml	点滴	60分	day1, 8, 15
6	生理食塩液	50m l	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日)			サイラムサーは2週間に1回(day1,15)、パ クリタキセルは 毎週(day1,8,15)4週を1クールとして繰り返 す PD又は容認しがたい毒性が発現するまで継続		

- ・サイラムザ初回投与時、IR観察期間 ・サイラムザ2回目以降IR観察期間省略可

レジメン名称		対象がん種				
レシメノ名称 ラムシルマブ + ロンサーフ併用療法		対象かん種 治癒切除不能な 進行・再発胃癌		週心分類 ■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時	間	投与日
1	生理食塩水 ポララミン注	250ml 5mg	点滴	全開		day 1,15
2	生理食塩水ラムシルマブ	250ml 8mg/kg	点滴	60分		day 1,15
3	生理食塩水	100ml	点滴	60分 (観察期間)		day 1,15
	ロンサーフ	35mg/m2/回 1日2回	経口			day1-5,8-12
1コースの期間 投			投与スケジュール及び総コース数			
28日間(4週)		4週間を1クールとして繰り返す PDまで継続				
根治切除不能な進行・再発の胃癌 2次治療以降 ③は、2回目以降省略可						

2

3

4

**(5)** 

### がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種			適応分類	
ラムシルマブ療法		胃が <i>ん</i> 肝細胞癌			進行・再発癌 術前補助化学療法 術前化学療法(進行) 術後補助化学療法 その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時		投与日	
/以(1)	12 J <del>2</del> 2 A 1	「口及子里	12 7/4	12 7 1	1111	IX T L	
1	ポララミン注5mg	1A	点滴	全開	F	day1	
	生理食塩液	50m1					

点滴

点滴

60分

フラッシュ

day1

day1

6					
1 = -	-スの期間		投与スケ	ジュール及び	総コース数
2週(14日)				2週間に1 PDま	

#### その他 (特記事項など)

・初回、2回目投与時までは、サイラムザ終了後1時間経過観察を行う。 ・サイラムザ投与時インラインフィルター使用 ・投与開始時、AFP400以上

8mg/kg

250ml

50m l

サイラムザ

生理食塩液

生理食塩液